

令和8年度
授業シラバス
【3年次】

志高く
未来を
創る

題字/松岡 篤志（元西高教諭）

北海道函館西高等学校

令和 8 年度 教育課程表

北海道函館西高等学校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	必履		必履		必履		必履		必履			履		必履		必履		必履		必履		選択必履		必履				必履		必履		LHR
1 年	1 現代の国語		2 言語文化		3 歴史総合		4 地理総合		5 数学Ⅰ			6 数学A		7 物理基礎		8 生物基礎		9 体育		10 保健		芸術Ⅰ (11音楽Ⅰ) (12書道Ⅰ) (13美術Ⅰ)		コミュニケーションⅠ 14英語				15 情報Ⅰ		探究基礎		LHR

	履	履	必履	履	履	必履	必履	必履	必履	履	選21	履	必履	LHR
2 年	1 論理 国語	2 古典探究	3 公 共	4 数 学Ⅱ	5 数 学B	6 化 学 基 礎	7 家 庭 基 礎	8 体 育	9 保 健	10 英語 コミュニケーションⅡ	11日本史探究 12世界史探究 13地理探究 14物理 15生物 16美術Ⅱ 17生涯体育※ 18音楽Ⅱ※ 19書道Ⅱ※ ・グローバル探究	20 論理・表現Ⅰ	探究ナビⅠ	L H R

※ 2・3 年共修

		必履	選31	選32	選33	選34	選35	選36	必履	必履	選37	選38	必履	LHR		
3 年	文系	1 論理 国語	2日本史探究 3世界史探究 4地理探究 5物理 6生物 7公民応用 8国語教養	9文学国語	16英語研究		22物理基礎研究 23生物基礎研究 24古典発展 25英語発展 26実践国語 27理科教養	28化学基礎研究 29地学基礎	36倫理 37政治経済	41 体育	コミュニケーション 42英 語 シ ョ ン Ⅲ	43生涯体育※ 44音楽Ⅱ※ 45書道Ⅱ※ 46数学研究A 47情報研究 48英語探究 49政治経済 50倫理応用 51実践化学 52デザイン	53小論文発展 54数学研究B 55英語研究 56数学発展 57国語に親しむ 58音楽Ⅲ 59書道Ⅲ 60色彩に親しむ	探究ナビⅡ	L H R	
	17数学C				30日本史探究											
	10数学Ⅲ				31化学 32物理 33生物											
	理系				18数学C											
	公務員 看護 専門 就職等			11数学研究A	12数学研究B			34数学応用 35英語教養	38漢表に親しむ 39書に親しむ 40情報Ⅱ							
				13公民応用 14実践英語 15国語教養		19地歴応用 20実践数学 21数学教養										

※ 2・3 年共修

北海道函館西高等学校 論理国語 年間指導計画(4単位)			A 30 時間		B 40 時間		C 時間		計 70 時間							
			単 元 名													
			4・5月		6月	7月	8月	9・10月	10月	11月		11・12月	12月	12・1月	1月	
科目の目標			の言語	わか	に近	をさ	読情	い社	し論	手思	報研	を叙	効果	内容	テ学	
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。			語え	りや	お代	まま	み、	論文	物筆	法考	究の	述の	的	社会	ー	
(1) 知識及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		につ	やす	けを	とめ	視社	的	事の	上ツ	調べ	つか	効果	的	習	
(2) 思考力、表現力、判断力等	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		を深	く	論自	な資	野を	な	の	て	説	か	的	確	に	
(3) 学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		めて	言	分の	料を	を	書	の	理	事	み	的	に	基	
			論じ	い	の	を	と	く	幅を	解	を	に	的	評	こ	
			した	換	評	集	する	関	を	を	読	論	的	論	を	
			評論		生	めて	考	する	論	深	ん	展	的	論	生	
			を読み		き	て考	察し	文	理的	め	だ	開	的	論	か	
			、自分		方	に現		章	に理	そ	り	す	的	論	し	
					に考	え	意	を	解	の	、	特		を	自	
					る社	会	見	を	理	種	必	徴		そ	分	
								短		類	要			の	の	
学年	第3年次	担当	宮井大介・小牧陽二													
使用教科書		東京書籍 精選論理国語														
指導領域		A 書くこと			4		6		6	6	2		4		2	
授業時数の計		30 時間														
指導領域		B 読むこと		8		8		4		8		2	5		5	
授業時数の計		40 時間														
指 導 事 項																
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。	○							○				○	
		イ	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。		○	○					○		○		○	
		ウ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。			○		○		○			○			
	(2)	エ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。	○				○	○	○			○			
		ア	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。				○		○			○			○	
		イ	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。			○				○			○			
	ウ	推論の仕方について理解を深め使うこと。					○	○						○		
(3)	ア	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。		○			○	○		○			○			
思考力、判断力、表現力等	A 書くこと	ア	実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。				○		○		○					
		イ	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。		○					○						
		ウ	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。		○										○	
		エ	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。				○			○					○	
		オ	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。						○				○			
		カ	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。		○				○				○		○	
	B 読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが			○						○				
		イ	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。							○			○			
		ウ	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。	○									○			
		エ	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。					○							○	
		オ	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。			○				○						
		カ	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。	○								○				
キ	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。					○							○			
※各単元の目標について			教 材 名													
(1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。			1	語	2	探	3	て	4	探	思	言	5	言	6	総
(2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。			こ	業	近	究	メ	の	他	究	考	の	困	業	自	ま
※各単元の評価規準の設定について			と	の	代	編	デ	段	者	事	事	の	難	の	己	と
(1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している。」として作成する。			ば	ト	と	の	イ		の	読	読	ト	な	の	と	め
(2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)」において、と明記し、文末を「～している。」として作成する。			を	いう	屏	ア		の	の	の	グ	時	レー	と		
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強く(積極的に、進んで、粘り強く等)、②自らの学習の調整(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)、③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)、④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。			再	時代	3	を		考	考	考	の	段	の	と		
			考	・		探	い		考	考	考	の	落	を	考	
			す	や		究	直		考	考	考	の	わ	を		
				さ		編	す		考	考	考	の	け	を		
				し		の			考	考	考	の	を	を		
				い		屏			考	考	考	の	を	を		
				日		3			考	考	考	の	を	を		
				本		の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考	の	を	を		
						究			考	考	考	の	を	を		
						編			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						屏			考	考	考	の	を	を		
						3			考	考	考	の	を	を		
						の			考	考	考	の	を	を		
						探			考	考	考					

3 年次		選択 3 1				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
地歴		日本史探究		2	選択授業	黒澤 剛
教科書		詳説日本史（山川出版）※継続				
補助教材		最新日本史図表（第一学習社）※継続				
目 標	科 目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 歴史的事象に関わる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的な事象を追求する姿勢を身につけているか。			我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか		歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか
評価の方法	・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・定期考査の問題			・授業態度 ・グループワーク、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・定期考査の問題		・授業態度 ・ワークシート等の提出状況 ・定期考査の問題

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	12	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章 中世社会の成立 第6章 武家社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ嶋	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的影響について考察することができる ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ嶋と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	20	第6章 武家社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的な意義を理解し、それ以降戦乱が全国各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
後期期末考査							
合計	70						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		世界史探究	3	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳説 世界史 （山川出版社）				
補助教材		ニューステージ世界史 （浜島書店）				
目 標	科 目	1 過去から現在までの変化の道筋を知ること、現在直面している世界の様相、社会の様相がどのようにしてできあがってきたのかを理解する。 2 歴史の中で生きた人間たちの生き方、考え方を検討し、自分の生き方、考え方を豊かにしていく。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	歴史上の事柄を、地域に分けて、時系列に理解できるようにする。		歴史上の事柄を、関連づけて説明できるようになる。		関心を持った事柄に対して、自分で調べたり、問を立てたりすることができる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 7 0 点 ・ワークシート ・スタディサブリ配信課題		・小テスト ・定期考査 3 0 点 ・ワークシート ・プレゼンテーション ・スタディサブリ配信課題		・課題提出を点数化する ・ワークシート ・プレゼンテーション ・スタディサブリ配信課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	24	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交流の時代 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	・北宋、南宋、征服王朝、モンゴル帝国の盛衰・16世紀の世界・ルネサンス、宗教改革・主権国家体制、激化する覇権競争・東アジア世界の帝国・	◎	○	○	・中世を脱却し、新たな価値観が生み出され、世界が拡大していく過程を理解する。ヨーロッパの海外進出によって、大西洋をはさんだ分業体制が確立したことを理解させる。 ・明を中心とする朝貢貿易が第2次大交易時代をもたらし、ポルトガルやオランダも交易に参入したことを理解させる。 ・ルネサンスがもたらした芸術・思想・科学の変革と、宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 ・主権国家体制の成立は、覇権競争の激化をもたらしたことを理解させる。
6-8	18	第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 第15章 帝国主義とアジアの民族運動	・西アジア南アジア東南アジア諸国と第2次大交易時代 ・産業革命 ・バクスブリタニカ ・フランス革命とナポレオン ・南北アメリカの革命 ・ヨーロッパの帝国主義 ・西アジアの改革 ・アフリカの分割 ・インドの植民地化 ・東南アジアの植民地化 ・中華帝国の崩壊 ・アメリカの帝国主義	◎	○	○	・イギリス産業革命によって、資本主義社会が確立したことを理解させる。 ・ウィーン体制の確立から1848年革命に至る過程を理解させる。 ・工業化が進化したイギリスとフランスに対し、遅れて工業化を進めたイタリア・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの在り方を理解させる。 ・19世紀の欧米でうまれた新しい文化が社会生活を一変させたことを理解させる。 ・アメリカ独立の歴史的意義とラテンアメリカへの影響を理解させる。 ・フランス革命の推移とともにナポレオンのヨーロッパ支配がもたらした歴史的意味を理解させる。 ・帝国主義の在り様から世界の一体化がはかれた構造を理解させる。 ・列強の帝国主義的な植民地獲得競争に対して、諸地域の民族がどのような抵抗を示したのかを理解させる。
		前期期末考査					
9-11	33	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第1次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制と国際協調 ・アジアのナショナリズム台頭 ・世界恐慌とファシズム ・満州事変と日中戦争 ・第2次世界大戦	◎	○	○	・総力戦としての第一次世界大戦と戦後、世界の中心がアメリカに移ったことを理解させる。 ・西アジア・インド・東南アジア・東アジアの戦間期での民族独立運動を理解させる。 ・世界恐慌とファシズムの台頭と東アジアでの日中間の動向を理解させる。 ・連合国の勝利で終わった第二次世界大戦の意味を理解させる。
		後期中間考査					
12-3	30	第3部 一体化に向かう世界 第18章 冷戦と第3世界の台頭 第19章冷戦の終結と今日の世界	・冷戦と第3世界 ・第3世界の台頭 ・産業構造の変容 ・冷戦の終結 ・問題演習(基礎分野 共テ対策)	◎	○	○	・主権国家体制の成り立ちについて、国別に理解できる。 ・各国の対立関係について理解できる。 ・市民革命について理解できる。 ・主権国家体制と市民革命の関係性について理解できる。 ・中央ユーラシア世界における騎馬遊牧民の特徴について理解できる。 ・朝鮮半島と日本の関係性について理解できる。
		(後期期末考査)					
合計	105						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
地歴		地理探究	3	選択授業		藤田 省吾
教科書		地理探究（二宮書店）{2年次に使用したものを継続して使用する}				
補助教材		1 年次の地理総合で使用した地図帳（「新詳高等地図」（帝国書院））				
目 標	科 目	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる。
評価の方法		・単元テスト ・ワークシート ・定期考査 ・ノート		・単元テスト ・ワークシート ・定期考査 ・ノート ・プレゼンテーション		・単元テスト ・ワークシート ・定期考査 ・ノート ・プレゼンテーション

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	22	第Ⅱ編現代世界の地誌的考察 第1章地域区分 第2章現代世界の諸地域	1 現代世界の地域区分 1 中国 2 朝鮮半島	◎	○	◎
6-7	23	第2章現代世界の諸地域	3 東南アジア 4 南アジア 5 西アジア・中央アジア 6 北アフリカ・サブサハラフリカ	◎	○	◎
前期期末考査・仮評定①						
8-11	45	第2章現代世界の諸地域	7 ヨーロッパ 8 ロシア 9 アングロアメリカ 1 0 ラテンアメリカ 1 1 オーストラリア 1 2 ニュージーランドと島嶼国	◎	○	◎
後期中間考査・仮評定②						
12-3	15	第Ⅲ編現代世界におけるこれからの日本の国土像	1 現代日本に求められる国土像	○	◎	◎
考査を実施せず・確定評定						
合計	105					

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		物理	3	選択	金澤恵	
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		スタディノート物理				
目 標	科 目	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。		物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動		・ 考查問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考查問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度 ・ スタディサプリでの取り組み	

年間計画

			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	24	第Ⅰ章 運動とエネルギー	1 平面運動と放物運動 2 剛体のつりあい 3 運動量の保存 4 円運動と単振動・万有引力	◎	○	◎
6-8	18	第Ⅱ章 波動	1 波の性質 2 音波 3 正弦波 4 光	◎	○	◎
前期期末考查						
9-11	33	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位 2 電流 3 電流と磁場	◎	◎	○
後期中間考查						
12-3	30	第Ⅲ章 電気と磁気 第Ⅳ章 原子	4 電磁誘導と交流 1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		生物	3	選択授業		関崎 淳二
教科書		生物（数研出版）				
補助教材		リードLightノート生物（数研出版）				
目 標	科 目	・ DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。 ・ 動物・植物の組織と調節の仕組みについて学習する。 ・ 生態系を構成する生物群集に仕組みについて学習する。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。			生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。
評価の方法	・ 小テスト ・ 単元テスト ・ 定期テスト ・ 提出物			・ 小テスト ・ 単元テスト ・ 定期テスト ・ 提出物		・ 小テスト ・ 単元テスト ・ 定期テスト ・ 提出物 ・ 日常的な学習活動や実験観察への取組

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-6	18	第4章 遺伝情報の発現と発生	第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節 第4節 発生と遺伝子発現 第5節 遺伝子を扱う技術	○	◎	◎	・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なくみを理解する。 ・遺伝子の発現について、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程・形態形成のしくみを理解する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーについて学習し、その原理と応用例を理解する。
前期期末考査・仮評定①							
7-9	16	第5章 動物の反応と行動	第1節 刺激の受容 第2節 ニューロンとその興奮 第3節 情報の統合 第4節 刺激への反応 第5節 動物の行動	○	◎	◎	・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 ・受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に、効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。
仮評定②							
9-11	24	第6章 植物の環境応答	第1節 植物の生活とホルモン 第2節 発芽の調節 第3節 成長の調節 第4節 器官の分化と花芽形成の調節 第5節 環境の変化に対する応答 第6節 配偶子形成と受精	◎	◎	○	・植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
後期中間考査・仮評定③							
12-1	12	第7章 生物群集と生態系	第1節 個体群の構造と性質 第2節 個体群内の個体間の関係 第3節 異なる種の個体群間の関係 第4節 系系の物質生産と物質循環 第5節 生態系と人間生活	○	◎	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における物質生産について理解する。 ・いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。
考査実施せず・確定評定							
合計	70						

3 年次		選択 3 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		公民応用	3	選択授業	船水 紀明	
教科書						
補助教材		詳述公共 新訂版（実教出版）・ズームアップ公共資料 新訂版（実教出版）				
目標	科目	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすることができる。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができる。		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができる。	
評価の方法		・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）		・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）		・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）

年間計画

			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	24	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第3章 現代の経済社会 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題	◎	○	○
6-8	18	第1編 公共の扉	第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 民主社会の倫理 第4章 民主国家における基本原理	○	◎	○
考查を実施せず						
9-11	33	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加	◎	○	○
考查を実施せず						
12-3	30	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	1. 課題の設定 2. 情報の収集と読み取り・分析 3. 課題の探究 4. 自分の考えの説明、論述	○	○	◎
考查を実施せず						
合計	105					

北海道函館西高等学校 国語教養 年間指導計画(3単位)				A 45 時間			B 60 時間			C 0 時間			計 105 時間						
				単 元 名															
				4月 共 言 語 を 事 す る	5月 視 言 語 ・ 論 点 を 整 理 し て 伝 え る	6月 情 言 報 を 事 項 理、 分 析 し て 伝 え る	7月 外 言 に 語 事 項 す る	8月 自 言 語 分 の 意 見 を 伝 え る	9月 目 言 的 や 意 図 を 伝 え 合 う	10月 特 言 徴 を 捉 え 直 す	10月 話 言 語 の 展 開 や 構 成 を 工 夫 す る	11月 総 言 語 合 的 な 国 語 の 教 養	12月 総 言 語 合 的 な 国 語 の 教 養	1月 総 言 語 合 的 な 国 語 の 教 養	1月	2月	3月		
科目の目標				一般教養としての国語の知識及び表現するための基本技能の習得を目標とする。 「話す・聞く・読む・書く」能力を育て、自己を適切かつ豊かに表現したり、目的や場に応じて効果的に表現したりする能力を育てる。															
(1) 知識及び技能				実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとする。															
(2) 思考力、 表現力、 判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の想いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。															
(3) 学びに向かう力・ 人間性等				言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。															
学年		3年次(選択)		担当		松村規正・長澤元子													
使用教科書				特になし															
指導領域				A 話すこと・聞くこと															
授業時数の計				45 時間															
指導領域				B 書くこと															
授業時数の計				60 時間															
指導領域				C 読むこと															
授業時数の計				0 時間															
指 導 事 項																			
知識 及び 技能	(1)	A	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○															
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○														
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。										○	○	○				
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。			○							○						
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。	○									○						
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。		○														
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。			○					○								
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。				○				○			○					
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○							○						
(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○							○					
	ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。										○	○	○					
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・ 聞くこと	ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	○								○							
		イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。								○								
		ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。	○		○		○		○					○				
		エ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。					○					○						
		オ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	○									○	○	○				
		ア	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。		○														
	B 書くこと	イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。				○												
		ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。						○										
		エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。							○		○	○	○					
		C 読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。															
			イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。															
				教 材 名															
				成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬					

3 年次		選択 3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学Ⅲ	4	選択授業	二階堂 航	
教科書		新編 数学Ⅲ（数研出版）				
補助教材		3 TRIAL 数学Ⅲ 完成ノート				
目標	科目	極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価の方法	・定期テスト、単元テスト、小テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。なお、小テストは学習内容ごとに定期的実施する。		・定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A、B、Cで評価する。		・定期テスト、単元テスト、小テストの項目分に、課題の提出状況や日常的な学習活動、スタディサプリへの取組状況を加えて3段階A、B、Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	関数 極限	○分数関数 ○無理関数 ○逆関数と合成関数 ○数列の極限 ○無限等比級数 ○無限級数 ○関数の極限(1) ○関数の極限(2) ○三角関数と極限 ○関数の連続性 【課題学習 1】	○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・定義域・値域を理解しグラフがかけらる。 ・極限(∞ , $-\infty$, $+0$, -0 , 右極限、左極限)の感覚を養い、関数値がどのようなになるか理解できる。 ・はさみうちの原理を理解できる。 ・無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 ・連続関数の性質を理解できる。
6-8	24	微分法 微分法の応用	○微分係数と導関数 ○導関数の計算 ○いろいろな関数の導関数 ○第n次導関数 ○曲線の方程式と導関数 ○接線の方程式 ○平均値の定理 ○関数の値の変化 ○関数のグラフ ○方程式、不等式への応用 ○速度と加速度 ○近似値 【課題学習 2】	○ ○ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・導関数の意味を理解し、基本的な関数の積、商、合成、逆関数を微分できる。 ・三角、指数・対数関数等の微分ができる。 ・高次導関数の定義、表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。 ・微分を利用して、接線を求めたり、関数の増減や凹凸を調べたりできる。 ・グラフをかくことにより、最大値・最小値を求めることや方程式・不等式を解くことができる。 ・媒介変数で表示された関数の微分ができるようになる。速度や加速度と微分の関係を理解できる。 ・導関数を利用して、1次の近似式を考察できる。
9-11	44	積分法とその応用	○不定積分とその基本性質 ○置換積分法と部分積分法 ○いろいろな関数の不定積分 ○定積分のその基本性質 ○置換積分法といろいろな問題 ○面積 ○体積 ○道のり ○曲線の長さ 【課題学習 3】	○ ◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・三角、指数・対数関数の不定積分を求めることができる。合成関数の積分や置換積分、部分積分が計算できる。 ・さまざまな定積分の値が計算でき、定積分と区分求積法の関係が理解できる。 ・さまざまな関数の面積や体積を求めることができる。 ・曲線の長さや道のりを計算できる。
12-3	40	まとめと復習	○補助教材の演習	○	◎	○	・これまでの知識を生かして、総合的な演習問題を解くことができる。
合計		140	考查を実施せず				

3 年次		選択 3 2 + 選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
数学		数学研究A+B	4	選択授業		今井 香恵
教科書		なし				
補助教材		共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C (Z会)				
目 標	科 目	既習事項を通して、発展的な数学へと繋がる複雑な事象を主体的に探究し、解答を導く経験を重ねることで、自らの考えを言語化する表現力や、共感を生む対話力を育む。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cにおける基礎的な知識を統合的に理解できる。 ・基本解法を用いた課題解決のための技能を習得する。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで身につけた知識を横断的に活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・的確な数理的処理を経て、その過程や結果を数学的な表現を用いて記述することができる。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで取り上げた数学的なものの見方や考え方に興味をもち、その良さを認識している。 ・数学的根拠をもって判断する姿勢をもち、自身の解決プロセスを振り返り、評価・改善を通じて思考を深めようとしている。	
評価の方法	・各単元テスト、小テスト、定期考査などで3段階A,B,Cで評価する。		・主に定期テストと単元テストなどで3段階A,B,Cで評価する。		・予習プリントおよび定期テスト、単元テストの項目ごとの課題への取組、提出状況を加えて、3段階A,B,Cで評価する。	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5		24	・方程式と不等式 ・集合と論理 ・図形と計量 ・2次関数 ・データの分析	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明 →状況によっては後期に	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・数と式の展開・因数分解の知識に基づき、方程式の解の構造を論理的に説明できる。 ・集合の性質を用いて、論理式を簡略化したり、複雑な条件を整理したりできる。 ・文章題から正弦定理・余弦定理を適切に選択・駆使し、与えられた辺や角の条件から必要な解法を導き出せる。 ・2次関数のグラフを視覚的に活用し、方程式・不等式や文字定数を含む「場合分け」の問題においても、状況を的確に整理し、正解に至る手順を論理的に導き出すことができる。 ・データの分析の知識を生かし、2つのデータの関連性を導き出すことができる。
6-8		27	・図形の性質 ・場合の数と確率 ・式と証明・高次方程式 ・図形と方程式 ・指数関数・対数関数 ・三角関数	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明 →状況によっては後期に	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・三角形や円の性質を基盤として、図形の中に隠れた条件を的確に見出し、正解に至る論理的な思考プロセスを構築できる。 ・複雑な事象に対しても、樹形図やベン図などの適切な表現方法を用いて状況を整理し、漏れや重複のない正確な数え上げや確率の計算を、粘り強く実行することができる。 ・整式の除法や恒等式の性質、複素数の概念を理解できる。複素数の範囲で方程式を考察し解を導くことなどができる。高次方程式の解法や解と係数の関係を用いて、丁寧に正解を導くことができる。 ・2直線の位置関係や円と直線の位置関係について、図形を代数的に表現し処理する方法を学習し、活用できる。 ・指数関数、対数関数、三角関数など、数学Ⅱで新しく定義された関数の概念を理解した上で、各種方程式・不等式の解法を解くことができる。
前期期末考査								
9-11		47	・微分・積分 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル <応用問題演習>	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	・微分・積分の知識を生かし、3次関数のグラフの性質を理解し、幅広く活用することができる。 ・数列の基礎知識を確認し、階差数列や漸化式などを処理するときに適切に活用できる。 ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察でき、問題解決に活用できる。 ・ベクトルの基本的な性質を活用し、平面図形・空間図形を考察し、問題解決に活用できる。 ・応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。 ・入試問題から数学的な見方考え方を学び、様々な問題からより深く数学について学ぶことができる。
後期中間考査								
12-3		42	<入試問題演習>					
考査を実施せず [※]								
合計		140						

3 年次		選択 3 2				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
公民		公民応用	3	選択授業		船水 紀明
教科書						
補助教材		詳述公共 新訂版（実教出版）・ズームアップ公共資料 新訂版（実教出版）				
目 標	科 目	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすることができる。			現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができる。		よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができる。
評価の方法	・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）			・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）		・単元テスト ・提出物（授業ノート・ワークシートなど）

年間計画

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	24	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第3章 現代の経済社会 第4章 経済活動のあり方と国民福祉 第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題	◎	○	○	主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができる。
6-8	18	第1編 公共の扉	第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 民主社会の倫理 第4章 民主国家における基本原理	○	◎	○	公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動を通して、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができる。 主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができる。
考查を実施せず							
9-11	33	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加	◎	○	○	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができる。
考查を実施せず							
12-3	30	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	1. 課題の設定 2. 情報の収集と読み取り・分析 3. 課題の探究 4. 自分の考えの説明、論述	○	○	◎	持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を通して、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができる。
考查を実施せず							
合計	105						

3 年次		選択 3 2				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		実践英語	3	選択授業	松尾 啓史	
教科書		なし				
補助教材		英語総合問題集Wonderland、発展30日完成[3]高校英語の基礎（高校初級用）、必携英単語LEAP				
目 標	科 目	・語彙力や読解力などの総合的な英語力を身につけ、実践的な問題を解くことができるように学力の向上を図る。 ・日常的、社会的なテーマについて自分の考えを述べるようになる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・言語や文化、社会情勢の知識を身につける。 ・文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。		・英文の意味や内容を速く、的確に把握する。 ・各文法項目について理解・整理し、伝えたいことを英語で表現する。		・他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。 ・積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期考査		・classroom課題 ・単元テスト ・定期考査		・classroom課題 ・設問への取り組み状況	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	Unit1-4	情報のイメージ化・文型 応答の聞き取り・時制 電話のメッセージ・完了形 状況把握・助動詞	◎	○	◎	・5 文型の文構造を理解し、基本的な文を表現することができる。 ・時制の用法を理解し、適切に使い分けることができる。 ・完了形の用法や意味を判断し、適切に使い分けることができる。 ・助動詞の用法や意味を理解し、表現することができる。 ・受動態の用法や意味を理解し、適切に表現することができる。 ・不定詞の用法を整理し、状況に合わせて表現することができる。 ・動名詞の用法や慣用表現を理解し、表現することができる。
6-8	18	Unit5-8	日記・受動態 状況の想像・不定詞① ホテルの予約・不定詞② 情報の整理・動名詞				
前期期末考査			情報の更新・分詞①				・分詞を理解し、適切に表現することができる。 ・接続詞の使用場面を理解し、効果的に用いることができる。 ・比較表現を用いて比較級、最上級を表現することができる。
9-11	33	Unit9-12	計算・分詞② スポーツニュース・接続詞 会話の流れ・人体	◎	○	◎	
後期中間考査			スペル・関係代名詞①				・関係詞の用法を理解し、場面に合わせて適切に使用することができる。
12-3	30	Unit13-15	円グラフ・関係代名詞② 時刻表・関係副詞	◎	○	◎	
考査を実施せず							
合計	105						

北海道函館西高等学校 国語教養 年間指導計画(3単位)				A 45 時間			B 60 時間			C 0 時間			計 105 時間							
				単 元 名																
				4月 共 感 語 事 項 を す る	5月 視 点 語 ・ 事 論 点 を 整 理 し て 伝 え る	6月 情 報 語 事 項 を 整 理 ・ 分 析 し て 伝 え る	7月 外 に 語 事 項 を す る	8月 自 分 の 意 見 を 伝 え る	9月 目 的 語 的 や 意 図 を 伝 え 合 う	10月 特 徴 語 事 項 を 捉 え 直 す	10月 話 の 展 開 や 構 成 を 工 夫 す る	11月 総 合 語 的 な 国 語 の 教 養	12月 総 合 語 的 な 国 語 の 教 養	1月 総 合 語 的 な 国 語 の 教 養	1月	2月	3月			
科目の目標				一般教養としての国語の知識及び表現するための基本 技能の習得を目標とする。 「話す・聞く・読む・書く」能力を育て、自己を適切かつ豊 かに表現したり、目的や場に応じて効果的に表現したり する能力を育てる。																
(1) 知識及び技能				実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ ようとする。																
(2) 思考力、 表現力、 判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像 したりする力を伸ばし、実社会における他者と の多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分 の想いや考えを広げたり深めたりすることがで きるようにする。																
(3) 学びに向かう力・ 人間性等				言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生 涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我 が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、 言葉を通して他者や社会に関わろうとする 態度を養う。																
学年		3年次(選択)		担当		松村規正・長澤元子														
使用教科書				特になし																
指導領域				A 話すこと・聞くこと																
授業時数の計				45 時間																
指導領域				B 書くこと																
授業時数の計				60 時間																
指導領域				C 読むこと																
授業時数の計				0 時間																
指 導 事 項																				
知識 及 び 技 能	(1)	A	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○																
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○															
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。										○	○	○					
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。			○						○								
	(2)	カ	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。	○								○								
		ア	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。		○															
		イ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。			○					○									
		ウ	推論の仕方を理解し使うこと。				○				○			○						
		エ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○							○							
思考力、 判 断 力、 表 現 力 等	(3)	オ	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。					○						○						
		ア	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。										○	○	○					
		A	ア	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	○								○							
			イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。								○								
			ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。	○		○		○	○					○					
	(4)	エ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。					○						○						
		オ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。	○									○	○	○					
		B	ア	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。		○														
			イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。				○												
			ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。						○										
C	エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。									○	○	○	○						
	イ	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。																		
				教 材 名																
				成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬	成 こ の は ・ 日 本 語 運 用 能 力 錬						

3 年次		選択 3 3		選択 3 8			
教科		科目		単位数	学級編成		担当者
外国語		英語研究		2	選択授業		菅野萌恋 ・ 松尾啓史
教科書		なし					
補助教材		発展30日完成 [14] 英語長文を読むためのパラグラフ・リーディング（高校中級用）、 必携英単語LEAP 共通テストリスニング分野別10min、 共通テストリーディング分野別10min					
目 標	科 目	社会的な話題を読むことや、聞くことを通じて自分の考えを書いたり、既習の語句や文法事項を応用し、書いたり話したりすることができる。また、言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。					
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。			読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		・自分の意見を伝えるために他者とコミュニケーションを図ろうとする。 ・積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト ・定期テスト			・小テスト ・定期テスト ・ペアワークやグループワーク		・小テスト ・定期テスト ・ペアワークやグループワーク	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	- パラグラフリーディング - リスニング第1回～第8回	- パラグラフリーディングの技法を身に付け、全体の論旨を大きく把握して読む。 - リスニングの基礎力養成のために、話される速さや語句、情報量を分析し、理解を確認しながら聞き取る。	◎	○	○	<読むこと> ・パラグラフリーディングの技法を活用し、英文の構造を理解し、的確に情報を検索したり、意見や概要を把握することができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、内容や意見を把握することができる。
6-8	12	- リーディング Training1～6 - リスニング第7回～第13回	- 長文読解、図表読解、情報整理 - リスニングの実践力養成のために、情報量が多く、話題や展開が複雑な内容を想定して聞き取り、反復することで理解を深める。	◎	○	○	<読むこと> ・社会的な話題について、長文や図表を読解し、情報を整理しながら概要や要点を捉えることができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（やりとり）> ・社会的な話題について、読んだり聞いたりしたことを基に、情報や考え、解決策などを論理的に話して伝え合うことができる。
		前期期末考査					
9-11	22	- リーディング Training7～18 - リスニング第14回～第25回	- 情報検索、意見把握、図表読解、長文読解 - リスニングの実践力養成のために、情報量がさらに多く、話題や展開がより複雑になる場合を想定して聞き取り、同様の内容を復習することで理解を深める。	○	◎	◎	<読むこと> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を扱う英文について、これまでの学習活動で身に付けた力を活用しながら多面的・多角的に読み取ることができる。 <聞くこと> ・話の展開に注意しながら英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（発表）> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を含む内容について、複数の視点や立場から、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。
		後期中間考査					
12-3	20	- リーディング Training19～26、80分テスト - リスニング第26回～第29回、30分テスト	- 長文読解、図表読解、情報整理 - リスニングの総合的な実践力養成のために、自力で目的を達成できるように、より実践的な課題に取り組む。	○	◎	◎	<書くこと> ・読んだり聞いたりしたことを基に、日常的な話題から社会的な話題にいたるまで、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
		考査を実施せず ^a					
合計	70						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学C（文系）	4	選択授業	荒木 正実	
教科書		新編 数学C （数研出版）				
補助教材		3 RTRIAL 数学C 完成ノート分冊(数研出版)				
目 標	科 目	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能を習熟し、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、積極的に数学を活用しようとする態度を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
評価の方法	・各単元テスト、定期テストに、小テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに、小テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに、ワーク（3 RTRIAL完成ノート）の提出状況や日常的な学習活動、課題への取組等を加えて3段階A, B, Cで評価する。 ・スタディサブリの取り組み状況を3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	14	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	○ベクトル ○ベクトルの演算 ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○位置ベクトル ○ベクトルの図形への応用 ○図形のベクトルによる表示	◎ ◎ ◎ ○ ◎ ○ ○	○ ○ ○ ◎ ○ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの和、差、定数倍を理解し、計算ができる。 ・成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。 ・等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルについて理解し、ベクトル方程式を求めることができる。 ・3点の一直線上の証明や、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。
6-8	14	空間のベクトル	○空間上の点 ○空間のベクトル ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○ベクトルの図形への応用 ○座標空間による図形	◎ ○ ◎ ◎ ○ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・空間上の点の表し方を理解し、対称な点の座標を求めることができる。 ・等しい空間ベクトルや逆ベクトル、和や差を考えることができる。 ・ベクトルの成分を定めたり、ベクトルの大きさを求めることができる。 ・3点で定まる角の大きさや、垂直なベクトルを求めることができる。 ・空間における図形を、位置ベクトルで考察できる。 ・球面と平面が交わってできる図形を考察できる。
前期期末考査							
9-11	24	複素数平面	○ベクトルの応用問題演習 ○複素数平面 ○複素数の極形式 ○ド・モアブルの定理	○ ◎ ◎ ○	◎ ○ ○ ◎	○ ◎ ○ ○	・応用問題を解く際の思考の流れを立てる中で、他分野との関連性を意識しながら、的確に処理できるようにする。 ・複素数平面や共役複素数の役割について理解している。 ・複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数のn乗根を極形式を用いて考察し、求めることができる。
後期中間考査							
12-3	18	複素数平面	○複素数と図形 ○複素数平面の応用問題演習	○ ○	◎ ◎	○ ○	・点zと運動する動点zが描く図形について理解し考察できる。 ・応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。
考査を実施せず ^{a)}							
合計	70						

3 年次		選 択 3 3				
教科		科 目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学C（理系）	4	選択授業	二階堂 航・今井 香恵	
教科書		新編 数学C （数研出版）				
補助教材		3 RTRIAL 数学C 完成ノート分冊(数研出版)				
目 標	科 目	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解し、基礎的な知識の習得と技能を習熟し、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や草創創造性の基礎を養う。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	
評価の方法	・各単元テスト、定期テストに、小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに、小テストの項目分を加えて3段階A,B,Cで評価する。		・各単元テスト、定期テストに、ワーク（3 RTRIAL完成ノート）の提出状況や日常的な学習活動、課題への取組等を加えて3段階A,B,Cで評価する。 ・スタディサブリの取り組み状況を3段階A,B,Cで評価する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	14	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	○ベクトル ○ベクトルの演算 ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○位置ベクトル ○ベクトルの図形への応用 ○図形のベクトルによる表示	◎ ◎ ◎ ○ ◎ ○ ○	○ ○ ○ ◎ ○ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの和、差、定数倍を理解し、計算ができる。 ・成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。 ・等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。 ・位置ベクトルについて理解し、ベクトル方程式を求めることができる。 ・3点の一直線上の証明や、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。
6-8	14	空間のベクトル	○空間上の点 ○空間のベクトル ○ベクトルの成分 ○ベクトルの内積 ○ベクトルの図形への応用 ○座標空間による図形	◎ ○ ◎ ◎ ○ ○	○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ○ ○ ○ ○ ○	・空間上の点の表し方を理解し、対称な点の座標を求めることができる。 ・等しい空間ベクトルや逆ベクトル、和や差を考えることができる。 ・ベクトルの成分を定めたり、ベクトルの大きさを求めることができる。 ・3点で定まる角の大きさや、垂直なベクトルを求めることができる。 ・空間における図形を、位置ベクトルで考察できる。 ・球面と平面が交わってできる図形を考察できる。
前期期末考査							
9-11	24	複素数平面 2次曲線	○複素数平面 ○複素数の極形式 ○ド・モアブルの定理 ○複素数と図形 ○放物線 ○楕円 ○双曲線	◎ ◎ ◎ ○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎ ◎ ○ ○ ○	◎ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎	・複素数平面や共役複素数の役割について理解している。 ・複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数のn乗根を極形式を用いて考察し、求めることができる。 ・点zと連動する動点zが描く図形について理解し考察できる。 ・放物線の概形を書いたり焦点や準線を求めることができる。 ・楕円の概形、焦点や長軸・短軸を理解している。条件を満たす方程式を求めることができる。 ・双曲線の概形、焦点や長軸・短軸を理解している。条件を満たす双曲線の方程式を求めることができる。
後期中間考査							
12-3	18	媒介変数表示と極座標	○2次曲線の平行移動 ○2次曲線と直線 ○曲線の媒介変数表示 ○極座標と極方程式 ○コンピュータの利用	○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ○ ◎	・曲線F(x-p, y-q)=0について理解し、その図形について考察できる。 ・2次曲線と直線の共有点の座標や個数を考察できる。 ・既習の曲線を媒介変数と結びつけて考察することができる。 ・直交座標と極座標の関係性を理解し、考察できる。 ・曲線をコンピュータで描き考察することに興味・関心をもつ。
考査を実施せず							
合計	70						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
地歴		地歴応用	3	選択授業	黒澤 剛	
教科書						
補助教材						
目標	科目	歴史分野、地理分野を問わず、一般常識的な知識を身につけ、教養を高める。 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連をふまえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 公務員試験の社会科学分野や適性試験に対応できるような問題演習を行う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地歴分野の基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。		身につけた知識を活用して、図や表、数値から解答を導くことができる。		現代世界の諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究しようとする。	
評価の方法	・授業で行われる問題演習を点数化する		・授業で行われる問題演習を点数化する。 ・白地図 ・プレゼンテーション		・白地図 ・プレゼンテーション ・自分の考えを文章化し表現する。	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験 地歴公民分野 ・公務員試験 適性検査 ・小テスト ・公務員試験問題演習	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する ・第二次世界大戦後に結成されたな国家群の特徴について理解できる。 ・グローバル化と日本の産業構造について理解できる。 ・人や情報の国際移動を通じて、一体化する現代世界の動向と課題について考察できる。
6-8	18	現代世界の特色と諸課題の地理的考察	・公務員試験問題演習 ・白地図 ・小テスト	◎	◎	○	・公務員試験にむけての実力を養成する
考查を実施せず							
9-11	33		・公務員試験問題演習 ・世界の諸地域の暮らしと文化（世界地誌の総括） ・白地図 ・小テスト	○	◎	◎	・公務員試験、面接にむけての実力を養成する。
考查を実施せず							
12-3	30		・歴史事項の総括 ・地球的課題の地理的考察 ・日常生活と結びついた地図 ・白地図 ・小テスト ・プレゼンテーション	○	○	◎	・地球的課題の現状やメカニズムについて考察し理解できる。 ・地図はその目的に応じてさまざまな種類・表現のものを理解できる。 ・取り組みについて振り返りをさせる。
考查を実施せず							
合計	105						

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
数学		実践数学	3	選択授業		星 野 朋 己
教科書		なし				
補助教材		2026 大学入試 短期集中ゼミ 看護医療のための数学Ⅰ・A（実教出版）				
目 標	科 目	数学ⅠAの既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身につけている。			・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容をさらに深く学ぼうと発展的な問題にも意欲的に取り組もうとしている。
評価の方法	・単元テスト、小テストで3段階A、B、Cに評価する。			・単元テスト、授業活動評価で3段階A、B、Cに評価する。		・授業活動評価、課題、授業における活動を3段階A、B、Cに評価する。

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	24	数学A：場合の数 数学A：確率	既習事項の復習と問題演習 毎時間小テスト・授業活動評価	◎	◎	◎
6-8	18	数学A：確率 数学A：図形の性質 数学Ⅰ：数と式	既習事項の復習と問題演習 毎時間小テスト・授業活動評価 単元テスト (6月：場合の数・確率)	◎	◎	◎
考查を実施せず						
9-11	33	数学Ⅰ：数と式 数学Ⅰ：2次関数 数学Ⅰ：集合と論証 数学Ⅰ：図形と計量	既習事項の復習と問題演習 毎時間小テスト・授業活動評価 単元テスト (9月：数と式) 単元テスト (10月：2次関数)	◎	◎	◎
考查を実施せず						
12-3	30	数学Ⅰ：図形と計量 数学Ⅰ：データの分析	既習事項の復習と問題演習 毎時間小テスト・授業活動評価 単元テスト (12月：図形と計量)	◎	◎	◎
考查を実施せず						
合計	105					

3 年次		選択 3 3				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
数学		数学教養	3	選択授業		井守 利栄子
教科書		なし				
補助教材		アクセスノート 数学Ⅰ＋Ⅱ 新課程版（実教出版）				
目 標	科 目	数学ⅠⅡの既習事項について、基本的な概念や定理・性質の理解をより深め、それらの有用性を再確認するとともに、事象を数学的に考察し活用しようとする態度を育てる。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的・基本的な事項を身に付けている。 ・既習事項を使って、数学的に考察し処理する技能を身に付けている。		・既習事項と関連づけて考察し、適切に分析・判断する力が付いている。 ・疑問点を論理的に考察したり、他と協働して解決策を模索したりし、学びを共有することができる。		・学習内容に興味・関心を持ち、自らの進路目標を見据えて計画的に学習している。 ・既習の学習内容を深めるため、身の回りの社会の事象との関連性に興味をもったり、他と協働して作問課題に取り組もうとしている。	
評価の方法	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト		・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・課題学習（授業における活動成果）		・自己評価 ・授業評価 ・課題学習（授業における活動状況）	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	数と式	○整式の計算 ○実数 ○1 次不等式	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ◎ ○	・多項式の基本的な計算や適切な形を選択して展開や因数分解ができる。 ・数を拡張することに興味を持ち、意味を理解できる。その上で、根号を含む式、絶対値記号を含む基本的な式の計算ができる。 ・不等式の性質について理解し、1 次不等式を解くことができる。
		集合と論証	○集合、命題、条件	◎	○	○	・集合や命題、条件のもつ意味を理解できる。
		場合の数と確率（前半）	○集合と場合の数 ○順列 ○組合せ	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	・樹形図を書いたり、数え上げができる。 ・順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 ・組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。
6-8	18	場合の数と確率（後半）	○確率の基本的性質 ○いろいろな確率	◎ ○	○ ◎	○ ◎	・確率の意味や基本的な法則について理解を深め、それらを活用して、事象の確率を求めることができる。 ・独立な試行、反復試行、条件付き確率の意味を理解し、基本的な法則に基づいて事象を考察した上で、それらを求めることができる。
		2 次関数（前半）	○2 次関数のグラフ ○2 次関数の最大・最小 ○2 次関数の決定	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ○	・2 次関数について理解し、そのグラフをかくことができる。 ・2 次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・2 次関数の決定について理解し、問題を解くことができる。
		前期期末考査					
9-11	33	2 次関数（後半）	○2 次関数のグラフと 2 次方程式 ○2 次関数のグラフと 2 次不等式	○ ○	◎ ◎	○ ◎	・2 次方程式の解を求めることができる。 ・2 次方程式や 2 次不等式の解と 2 次関数のグラフとの関係性について理解できる。 ・2 次関数のグラフを用いて、2 次不等式を解くことができる。
		図形と計量	○三角比 ○正弦定理・余弦定理 ○三角形の面積・空間図形への応用	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ○ ◎	・三角比の意味やその基本的な性質について理解できる。 ・正弦定理や余弦定理を理解し、活用できる。 ・三角比や正弦定理、余弦定理などを用いて図形の計量に応用できる。
		後期中間考査					
12-3	30	図形の性質	○三角形と比 ○円の性質 ○空間図形	◎ ○ ○	○ ◎ ◎	○ ◎ ○	・三角形、円および空間図形に関する基本的な性質を理解できる。 ・既習事項を組合せ、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり、説明できる。
		データの分析	○データの整理 ○分散と標準偏差・相関係数	◎ ○	○ ◎	◎ ◎	・目的に応じたデータの収集、分析を行い、事象の特徴を説明できる。 ・分散、標準偏差、散布図および相関係数の意味や使い方を理解できる。
		考査を実施せず					
合計	105						

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		物理基礎研究	2	選択授業		高橋 賢司
教科書		なし				
補助教材		大学入学共通テスト対策 チェック＆演習 物理基礎 改訂版（数研出版）				
目 標	科 目	物理基礎で学んだ物理の基本的な概念や原理・法則について理解を深め、観察や実験などをおして、理科の見方・考え方を働かせ、日常の現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・学習した物理の基本的な概念や原理・法則を正しく理解できたか。 ・正しい手順で観察・実験を行うことができたか。			・課題に対して、科学的・論理的に思考し、判断しているか。 ・課題について自らの考えをわかりやすく伝えることができたか。		・意欲的に課題を追求することができたか。 ・自ら考え、見通しを持って主体的に観察・実験に取り組んだか。
評価の方法	・ 考査問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え			・ 考査問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考査問題 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか。 ・ ワークシートなど提出物

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	I 物体の運動	1 運動の表し方 2 力と運動の法則	◎	◎	○	・ 具体的な運動について、観察をおして速度・加速度の関連性の理解を深める。 ・ 落体の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解を深める。 ・ 物体にはたらく力の具体的な例を実験等により確かめる。 ・ 力のつり合いを図と式を使って考える。 ・ 力と速度・加速度の関連性について、具体的な運動をおして理解を深める。
6-8	12	II エネルギー	1 仕事と力学的エネルギー 2 熱と温度・仕事	○	◎	○	・ 物理における仕事について理解を深める。 ・ 仕事とエネルギーの関連性を具体的な現象をおして理解を深める。 ・ 熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・ 熱とその量及びその移動について式を使って考える。 ・ 熱とエネルギーの関連性を実験をおして理解を深める。
9-11	22	III 波	1 波の性質 2 音波	○	◎	◎	・ 波の性質や波が伝わる際の媒質の変化について、実験・観察をおして理解を深める。 ・ 音波の具体的な現象を、実験・観察をおして理解を深める。 ・ 気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質について理解を深める。
12-3	20	IV 電気	1 電荷・電流・磁場	◎	○	○	・ 静電気と電子について理解を深める。 ・ 電流、電圧、電気抵抗の相互の関係について理解を深める。 ・ 電流の種類と電磁波について理解を深める。 ・ 様々なエネルギー資源が、使いやすい形態に変換されるしくみについて理解を深める。
(後期期末考査)							

合計 70

3 年次 選択 3 4

教科		科目	単位数	学級編成		担当者	
理科		生物基礎研究	2	選択授業		畠山 薫	
教科書		新編生物基礎（東京書籍）					
補助教材		大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎（数研出版）					
目標	科目	1 1年次で学習した「生物基礎」の内容を、全体を俯瞰する形で体系的に捉え直す。 2 各章の関連性の理解を深め、問題演習を通して、総合的に生物基礎を捉える。 ※ 設定科目の趣旨をふまえ、自己の進路決定状況に関わらず他の生徒への配慮を怠らず、最後まで真摯な態度で授業に臨む。					
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・生命現象について、概念や原理を理解し身につけることができたか。 ・観察・実験の正しい手順を理解しているか。		・生命現象について、資料やデータから内容を読み取り、まとめることができたか。 ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができたか。		・生命現象を日常生活と結びつけ、関心を持って学習に臨めたか。 ・日常生活や社会的な課題を学習内容を生かし解決に向けて取り組めたか。		
評価の方法	・要点チェック 5分20問→フォーム送信		・演習をノートに解く→画像送信（思考過程、解答問題数）		・単元のポイント整理、自身の理解度振り返りをノート下部に書く→画像送信		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-7	20	生物の特徴 ヒトの体内環境の維持 生物の多様性と生態系	単元ごとの学習内容の復習	◎	◎	○	・教科書を使用しながら演習を行い、1 年次の学習内容の復習と論理的思考方法を身につける。
前期期末評価・仮評定①							
8-9	10	生物の特徴 ヒトの体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解した総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用しながら単元をまたいだ演習を行い、論理的思考の上達を目指す。
仮評定②							
9-11	25	生物の特徴 ヒトの体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解し結びつけての実践的な総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用せず、自らの知識・思考のみで演習に取り組む。
後期中間評価・仮評定③							
12-1	15	生物の特徴 ヒトの体内環境の維持 生物の多様性と生態系	各単元の関連性を理解し結びつけての実践的な総合演習	○	◎	◎	・教科書を使用せず、自らの知識・思考のみで演習に取り組む。
後期期末評価・確定評定							

合計 70

北海道函館西高等学校 古典発展 年間指導計画(2単位)				A 70 時間		B 時間		C 時間		計 70 時間												
				単元名																		
				4月	5月		6月		7月		8月	9月		10月		11月		12月	1月	2月	3月	
科目の目標				説話を通して話の面白さを味わおう	故事成語と日本文化のかかわりを考えよう	随筆の名場面を読み味わい、作者の心情を考へよう	複数のテクストを読み比べてその関連性について読み解こう	話の構造の特徴を理解し、作者の意図を考えよう	文学作品としての日記を読み、それぞれの文芸的特徴を読み比べよう	随筆の名場面から内容の理解を深めよう	古典作品の成立に関する考え方を理解し、関連作品から内容の理解を深めよう	作品世界を理解し、日本人の感性について考えてみよう	作品の背景となる作者と社会の関わりを考えてみよう	文学作品とその背景への理解を深め、作品観を確立させよう	テーマを決めて古典を探究しよう	中国古典小説が、どのように近代日本文学に影響を及ぼしているか、比較しながら読もう	品に影響を及ぼしているか、比較しながら読もう	ように生かされて、能るの詞書の中に古典がどのよう	よう古・中世とは異なる近世・近代の多様な文章を読み、日本文学の変遷について考えてみよう	よう古・中世とは異なる近世・近代の多様な文章を読み、日本文学の変遷について考えてみよう		
(1) 知識及び技能				生涯にわたる社会生活に必要な言語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようになる。																		
(2) 思考力、表現力、判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																		
(3) 学びに向かう力・人間性等				言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																		
学年		3年次(選択)		担当	宮井 大介																	
使用教科書																						
指導領域				A 読むこと																		
授業時数の計				70 時間																		
指 導 事 項																						
知識及び技能	(1)	ア	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き言葉を豊かにすること。	○					○			○						○		○		
		イ	古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。																○		○	
		ウ	古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。															○			○	
		エ	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。	○																	○	
	(2)	ア	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深めること。											○						○		
		イ	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。	○	○						○			○					○		○	
		ウ	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。											○							○	
		エ	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。													○						○
思考力、判断力、表現力等	A 読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。	○							○								○		○	
		イ	文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。																	○		
		ウ	必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。	○			○	○			○										○	
		エ	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。								○						○			○		
		オ	古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。										○	○			○	○				○
		カ	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。													○				○		
		キ	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。													○	○					○
		ク	古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。													○	○					
				教 材 名																		
				と源義家、衣川にて安倍貞任と連歌のこと	水魚の交はり	故事・逸話『十八史略』	く随筆『徒然草』家居のつきづきし	に長恨歌と日本の文学	『枕草子』二月つごもりごろ	言『大鏡』鶯宿梅と『拾遺和歌集』	『無名草子』紫式部のこと	『和泉式部日記』和泉式部と清少納言	『源氏物語』の中の女性論	『源氏物語』葵・須磨	『唐土八家文讀本』	蛇を捕らふる者の説	漢詩の流儀』日本の桜・中国の桜	『人虎伝』と『山月記』	『西鶴諸国ばなし』	『新釈諸国噺』太宰治		

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
外国語		英語発展	2	選択授業		森田 友江 ・ 佐々木 ちひろ
教科書		なし				
補助教材		英語総合問題集Wonderland 2.5 3rd Edition、必携英単語LEAP				
目 標	科 目	語彙力や読解力など総合的な英語の力を身につけ、実践的な問題を解くことができるように学力の向上を図るとともに、社会的な話題を読み、テーマについて自分の考えを論理的に述べるができるようになる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	言語や文化、社会情勢の知識を身につける。 文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。			英文の意味や内容を速く、的確に把握する。 各文法項目について理解・整理し、自分の考えを論理的に英語で表現する。		積極的な態度で言語活動に参加し、社会的な話題について他人の意見を理解しようとする。
評価の方法	・小テスト（LEAP単語） ・音読テスト（クラスルーム提出） ・単元テスト（語彙・文法知識など）			・単元テスト（本文理解・要約など） ・本文の内容に関する英作文		・ペアワークやグループワーク ・設問への取り組み状況 ・成果物（各単元課題） ・各単元の振り返りフォーム

年間計画 ◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	Unit1-4	情報のイメージ化・文型 応答の聞き取り・時制 電話のメッセージ・完了形 状況把握・助動詞	◎	○	◎	〈読むこと〉 日常的な話題に関するニュース記事やブログ、説明文を読んで、重要な情報や概要を捉える。 〈書くこと〉 日常生活の中で簡単な対話や説明を聞いたり、読んだりしながら取ったメモを基に、情報を整理しながら書いて伝える。 ・ 5 文型の文構造を理解し、基本的な文を表現することができる。 ・ 時制の用法を理解し、適切に使い分けることができる。 ・ 完了形の用法や意味を判断し、適切に使い分けすることができる。 ・ 助動詞の用法や意味を理解し、表現することができる。 ・ 受動態の用法や意味を理解し、適切に表現することができる。 ・ 不定詞の用法を整理し、状況に合わせて表現することができる。 ・ 動名詞の用法や慣用表現を理解し、表現することができる。
6-8	12	Unit5-8	日記・受動態 状況の想像・不定詞① ホテルの予約・不定詞② 情報の整理・動名詞				
(前期期末考査)							
9-11	22	Unit9-12	情報の更新・分詞① 計算・分詞② スポーツニュース・接続詞 会話の流れ・人体	◎	○	◎	〈読むこと〉 日常的な話題に関するニュース記事やブログ、説明文を読んで、重要な情報や概要を捉える。 〈書くこと〉 日常生活の中で簡単な対話や説明を聞いたり、読んだりしながら取ったメモを基に、情報を整理しながら書いて伝える。 ・ 分詞を理解し、適切に表現することができる。 ・ 接続詞の使用場面を理解し、効果的に用いることができる。 ・ 比較表現を用いて比較級、最上級を表現することができる。
(後期中間考査)							
12-3	20	Unit13-15	スペル・関係代名詞① 円グラフ・関係代名詞② 時刻表・関係副詞				〈読むこと〉 日常的な話題に関するニュース記事やブログ、説明文を読んで、重要な情報や概要を捉える。 〈書くこと〉 日常生活の中で簡単な対話や説明を聞いたり、読んだりしながら取ったメモを基に、情報を整理しながら書いて伝える。 ・ 関係詞の用法を理解し、場面に合わせて適切に使用することができる。
考査を実施せず							
合計	70						

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
国語		実践国語	2	選択授業	松 村 規 正	
教科書		なし				
補助教材		現代文グレートラーニング 4 0 (尚文出版) レベル 2				
目 標	科 目	平易な文章の読解に取り組み、基本的な漢字・語彙の知識を身につけ、現代文読解の基礎力を養う。文章の内容を的確に要約したり、自分の意見を適切に表現したりできるようになる。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることができる		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		実社会に必要なコミュニケーション能力、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。	
評価の方法	・ 定期考査 ・ 小テスト		・ 定期考査 ・ 小テスト		・ ワークブックの提出 ・ 授業観察	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・平易な評論の読解 ・平易な随筆の読解 ・平易な小説の読解	・ワークブックの演習 ・プリント学習 ・小テスト	◎		○	・社会生活に必要な国語の知識（言葉には思考が関係すること、表現に気を付けること、常用漢字を適切に用いること、実社会で用いる文の組み立て方や比喩表現などを理解すること）や技能を身に付けるとともに、論理的な文章に対する理解を深めようとしている。
6-8	12	・平易な評論の読解 ・平易な随筆の読解 ・平易な小説の読解 ・要約	・ワークブックの演習 ・プリント学習 ・小テスト	◎		○	・書くこと・読むことに関する事項（目的や場に応じて自分の考えが的確に伝わるよう論理展開を考えること、論理展開を予想しながら情報を整理して自分の考えを深めること、文章の種類を踏まえて内容を的確にとらえながら要旨を把握すること）を身に付けている。
(前期期末考査)							
9-11	22	・評論の読解 ・随筆の読解 ・小説の読解 ・要約	・ワークブックの演習 ・プリント学習 ・小テスト		◎	○	・進学試験に必要とされる実社会で用いられている文章や段落の構成また多様な文章表現を理解する知識及び技能を身に付けるとともに、本文から解答の根拠を探しながら読解を深めようとしている。
(後期中間考査)							
12-3	10	・評論の読解 ・随筆の読解 ・小説の読解 ・要約	・ワークブックの演習 ・プリント学習 ・小テスト		◎	○	・進学試験に必要とされる実社会で用いられている文章や段落の構成また多様な文章表現を理解する知識及び技能を身に付けるとともに、本文から解答の根拠を探しながら読解を深めようとしている。
考査を実施せず							
合計	60						

3 年次		選択 3 4				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		理科教養	2	選択授業		宮本 亜未
教科書						
補助教材		科学と人間生活 補充テキスト&問題集 化学編・物理編（数研出版）				
目 標	科 目	自然の事物・現象や科学技術について興味・関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		・自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法		・授業態度 ・授業での気づき、発問 ・ワークシート等の提出 ・ワークシートの記述内容 準備や操作の状況		・授業態度 ・グループ討論、発表の状況 ・ワークシートの記述内容		・発問に対する解答 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	18	物質の構成と化学結合	・物質の構成 ・物質の構成粒子	◎	○	◎	・物質が原子で構成されており、原子は陽子・電子・中性子からできていることがわかる。 ・価電子の数が原子やイオンの性質と関係していることがわかる。
6-7	14	物質の構成と化学結合	・粒子の結合	◎	◎	◎	・物質を構成している粒子の結合とその物質の性質を関連付けて考えることができる。
考查を実施せず							
8-11	24	物質の変化	・物質量と化学反応式	◎	◎	◎	・粒子の重さは12C=12を基準とした相対値で表すことがわかる。 ・物質の量（個数、質量、体積等）をmolと関連づけることができる。 ・化学反応による量的関係について理解し説明ができる。
考查を実施せず							
12-3	14	運動とエネルギー	・運動の表し方 ・運動の法則	◎	◎	◎	・様々な現象における運動について、理解し説明ができる。
考查を実施せず							
合計	70						

3 年次		選 択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		化学基礎研究	2	選択授業		
教科書		東京書籍 新編化学基礎				
補助教材		数研出版 新課程大学入学共通テスト対策チェック&演習化学基礎				
目 標	科 目	物質とその変化に関わり,理科の見方・考え方を働かせ,見通しをもって観察,実験を行うことなどを通して,物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	段取り力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら,物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。			物質とその変化から問題を見だし,見通しをもつて観察,実験などを行い,得られた結果を分析して解釈し,表現するなど,科学的に探究している。		物質とその変化に主体的に関わり,見通しをもったり振り返ったりするなど,科学的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査 課題			定期考査 レポート		定期考査 課題

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度
4-5	16	1 編 1 章 2 章 2 編 1 章	化学とは何か 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 電子配置と周期表	◎ ◎	◎ ◎	◎
6-8	12	2 編 2 章	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 化学結合と物質の分類	◎	◎	
前期期末考査						
9-11	22	3 編 1 章 2 章	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応の表し方 化学反応の表す量的関係 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩の生成 中和滴定	◎ ◎	◎	◎
後期中間考査						
12-3	20	3 編 3 章 終章	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用 化学が拓く世界	◎	◎ ◎	◎
合計	70					

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		地学基礎	2	選択授業	高橋 賢司	
教科書		改訂 地学基礎（東京書籍）				
補助教材		ニューサポート 地学基礎（東京書籍）				
目 標	科 目	・ 私たちの生活の場である自然環境に関して、物理的な側面や化学的な側面、そして生物的な側面から捉え、多角的に考え、表現することができる。 ・ 日本列島では、自然災害が比較的に多いことから、地震、津波、火山、集中豪雨についての理解を深め、自然災害に対して正しく対処することができるよう、自ら学んだことを実生活に還元することができる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	地学は、私たちの生活の場である自然環境に関する科目であり、物理的側面、化学的側面、生物的側面を含んでいて、様々な要素が組み合わさることで、自然環境ができていることを理解することができる。		地学を通して学んだ学習内容や知識を、繋がりを持たせて（関連付けて）捉え、地学の知識や内容を活用することができる。		自然災害から、正しく身を守るために、防災の知識を持ち、地学を通して学んだことを活かすことができる。	
評価の方法		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業での発問に対する答え		・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 考查問題 ・ ワークシートなどの提出物 ・ 主体的に実験やグループ活動に参加できたか		

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	①宇宙の構造と進化 ②太陽と惑星	・ビッグバンと宇宙の誕生 ・天体の誕生 ・銀河と天の川銀河 ・銀河の集団と宇宙の大規模構造 ・太陽系の誕生 ・太陽系天体の特徴 ・太陽	◎	◎	○	・ビッグバンと宇宙の誕生について、理解を深める。 ・天体の誕生、恒星としての太陽の進化、銀河と天の川銀河、銀河集団と宇宙の大規模構造について正しく理解している。 ・「宇宙の暗れ上がり」の後、ガスが重力（万有引力）によって集まり恒星が誕生した流れを説明することができる。 ・惑星が形成されるとき、原始太陽からの距離によって、性質が異なる2種類の惑星ができ、地球型惑星と木星型惑星の違いについて説明することができる。 ・なぜ地球型惑星と木星型惑星では、惑星の特徴が異なるのか、興味関心を持って、取り組むことができる。
6-8	12	③地層や岩石の観察 ④生命の変遷	・地層の形成 ・地質構造 ・地層と古環境 ・地球史の最初期 ・先カンブリア時代 ・古生代 ・中生代 ・新生代	○	◎	○	・地層累重の法則、示準化石、示相化石、地層の対比等について説明することができる。 ・放射性元素による年代測定など半減期の見方を理解し、どのような場面で利用されているのか興味関心を持ち、学習活動にあたることができる。 ・無脊椎動物が爆発的に出現し多様化したカンブリア爆発について説明することができる。ペルム紀末の大量絶滅を経て、中生代には被子植物が登場し、恐竜やアンモナイトが繁栄したことを説明することができる。
前期期末考查							
9-11	22	⑤大地とその動き ⑥地震と火山	・地球の形と大きさ ・地球の構造 ・地球内部の動き ・プレート境界 ・地震のメカニズム ・海溝の地震、活断層の地震 ・火山活動の多様性 ・火成岩の観察	○	◎	◎	・地球が球体である事実を、様々な視点や根拠から説明することができる。 ・プレートテクトニクスや、ブルームテクトニクスについての理解を深め、説明することができる。 ・3種類あるプレートの境界について理解を深め、その違いについて説明することができる。 ・地球の自転の影響も考慮した地球の形が、赤道部分が長い回転楕円体であることを説明することができる。 ・身近な現象の中にある「対流」を理解し、マンツルの動きと関連付けすることができる。 ・地震のメカニズムや火山活動の多様性について理解を深める。
後期中間考查							
12-3	20	⑦大気と海洋 ⑧日本の自然の恵みと防災 ⑨地球環境の考え方	・地球の大気 ・地球の熱収支 ・大気の大循環 ・海水とその運動 ・日本の自然環境の特徴 ・自然の恵み ・地震による災害と防災 ・火山による災害と防災 ・気象災害と防災	◎	○	○	・大気の層構造は、温度の高度変化に伴い定まっていることを理解し、各層の役割等も含めて説明することができる。 ・海水温度と水深の関係についても理解し、説明することができる。トリチエリの実験について説明することができる。 ・「炭素循環」についての理解を深め、説明することができる。 ・地球環境問題に対応するためこれからの社会には持続可能な発展が求められていることを理解し、できることを考え行動することができる。 ・日本には狭い国土の中に多様な自然環境を持っており、さまざまな恵を与えてくれる。例えば、地熱発電等について自ら調べ、エネルギー問題等の発展的な内容について調べ、自分の意見を持つことができる。
後期期末考查							
合計	70						

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
地歴		日本史探究		2	選択授業	黒澤 剛
教科書		詳説日本史(山川出版)				
補助教材		最新日本史図表（第一学習社） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）				
目 標	科 目	我が国が形成される歴史的な過程を広い視野に立って学び、世界の中の日本という意識のもと、これからの国際社会に生きる民主的、平和的国家・社会の有為な形成者としての資質と自覚を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	原始・古代からの我が国の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 歴史的事象に関わる資料や情報を収集、選択し、活用することによって、歴史的事象を追求する姿勢を身につけているか。			我が国がどのような過程を経て形成されたかを幅広い視野に立ち、考察することができるか		歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追求しようとしているか
評価の方法		・授業態度 ・ワークシートの記述内容 ・小テスト ・定期考査の問題			・授業態度 ・グループワーク、発表の状況 ・ワークシートの記述内容 ・定期考査の問題	
					・授業態度 ・ワークシート等の提出状況 ・定期考査の問題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳と大和政権 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安朝廷の形成	◎	○	○	・旧石器時代と縄文時代について理解することができる。 ・弥生時代について理解することができる。 ・古墳時代とヤマト政権について理解することができる。 ・飛鳥時代について理解することができる。 ・律令国家の成立について理解することができる。 ・奈良時代について理解することができる。 ・天平文化について理解することができる。 ・平安時代初期について理解することができる。 ・弘仁・貞観文化について、その特徴を理解することができる。
6-8	12	第3章 貴族政治の国風文化 第4章 中世社会の成立	1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園と武士 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	◎	○	○	・摂関政治について理解することができる。 ・国風文化について、その特徴を理解することができる。 ・律令制の崩壊と土地制度・税制の変化について理解することができる。 ・武士の発生の背景と台頭について理解することができる。 ・院政と平氏政権について理解することができる。 ・源平の争乱から鎌倉幕府の成立について理解することができる。 ・執権政治の展開と承久の乱以降の社会の変化について理解することができる。 ・武士の社会の特徴を理解することができる。 ・鎌倉時代における経済の発達について考察することができる。
前期期末考査							
9-11	22	第5章 中世社会の成立 第6章 武家社会の成長	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 1 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立へ 2 東アジアとの交易、琉球と蝦夷ヶ嶋	◎	○	○	・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた大きな影響について考察し、理解を深めることができる。 ・公家中心の文化から武家の台頭に伴う武家文化の隆興へ転換していくことを理解することができる。 ・鎌倉仏教の成立と歴史的影響について考察することができる ・鎌倉幕府滅亡の過程と建武政権、さらに室町幕府成立から南北朝の騒乱に至る流動期の時代の理解を深めることができる ・3代将軍足利義満の事情と室町幕府の仕組みについて理解することができる ・日明貿易・日朝貿易の意義、琉球と蝦夷ヶ嶋と本土の交流について考察することができる。
後期中間考査							
12-3	20	第6章 武家社会の成長	1 鎌倉幕府の滅亡と室町幕府の成立 2 応仁の乱とその影響 3 室町文化 4 戦国大名の登場	◎	○	○	・庶民の台頭による一揆の発生、それに反比例するように幕府権力が弱体化していく過程を考察することができる。 ・応仁の乱の歴史的な意義を理解し、それ以降戦乱が全国の各地へ波及していくことを考察することができる。 ・室町幕府の文化の特徴を理解し、これが日本文化の典型とされていることを考察することができる。 ・戦国時代の特徴を理解し、中世から近世への過渡的段階であることを考察することができる。
後期期末考査							
合計	70						

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目		単位数	学級編成	担当者
理科		化学		4	選択授業	岩谷 義久
教科書		東京書籍 化学 Vol.1 理論編 化学 Vol.2 物質編				
補助教材		啓林館 センサー総合化学4thEdition				
目 標	科 目	化学的な事物・現象に関わり,理科の見方・考え方を働かせ,見通しをもって観察,実験を行うことなどを通して,化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる。	疑問を持ち、課題を見出すことができる。	先を見通して、物事を進めることができる。	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる。	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる。
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する技能を身に付けている。			観察,実験などを行い,科学的に探究している。		化学的な事物・現象に主体的に関わり,科学的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考査 課題			定期考査 レポート		定期考査 課題

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	32	1編 物質の状態	1章 物質の状態 2章 気体の性質 3章 溶液の性質 4章 固体の構造	○	◎	○	・ 固体, 液体, 気体の3つの状態を確認し, 粒子のふるまいを考える。 ・ 蒸気圧と蒸気圧曲線について理解する。 ・ ボイルの法則とシャルルの法則からボイル・シャルルの法則が導かれることを理解する。 ・ 気体の状態方程式を理解する。 ・ 溶解度と溶解度曲線の表し方について理解する。 ・ 金属結晶の代表的な構造について考える。 ・ ヘスの法則(総熱量保存の法則)について理解する。
		2編 化学反応とエネルギー	1章 化学反応と熱・光	○	◎	◎	
6-8	24	3編 化学反応の速さと平衡	2章 電池と電気分解 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡 3章 水溶液中の化学平衡	○ ◎	○ ◎	○ ○	・ 酸化還元反応を利用してエネルギーを電気として取り出す方法について考える。 ・ 反応速度vの表し方を理解する。 ・ 化学平衡の法則の関係を理解する。 ・ 水の電離平衡について, 平衡定数を考え, 水のイオン積について確認する。 ・ 水のイオン積の関係式から, pHを求めることができる。 ・ 化学基礎での学習を元に, 周期表の分類について理解する。
		4編 無機物質	1章 周期表と元素	○			
		前期期末考査					
9-11	44	2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認	2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物 4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認	◎	○	○	・ 貴ガスの性質や主な用途について知る。 ・ ハーバー・ボッシュ法の歴史に関して理解し, 現代における課題について理解する。 ・ 酸化鉄, 鉄(Ⅱ)化合物, 鉄(Ⅲ)化合物について理解する。 ・ 複数の金属イオンの混合溶液から各金属イオンを分離し, その種類を確認することを系統立てて行う方法について理解する。 ・ 有機化合物のさまざまな表し方を理解する。 ・ 化石燃料の特徴について理解する。
		5編 有機化合物	1章 有機化合物の特徴と構造 炭化水素	○	○		
		後期中間考査					
12-3	40	3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物	3章 アルコールと関連化合物 4章 芳香族化合物	○	◎	○	・ アルコールの構造とさまざまな分類方法について理解する。 ・ 脂肪と脂肪油の違いを理解する。 ・ セッケンの性質について, 理解する。 ・ ベンゼンの性質について, 理解する。 ・ 高分子化合物とは何かを理解し, その分類について知る。 ・ ナイロン合成の歴史について知る。 ・ 高分子化学の歴史について知る。
		6編 高分子化合物	1章 高分子化合物とは何か 2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物	◎	◎	○	
		7編 化学が果たす役割	1章 化学的性質の利用と工業的製法 2章 未来を創る化学		◎	○	・ 合成樹脂(プラスチック)とは何か確認する。 ・ これまで学習してきた内容を踏まえて, これまでをまとめ, 未来に向けてどうあるべきかを考える。
合計	140						

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
理科		物理	4	選択		金澤恵
教科書		高等学校物理（第一学習社）				
補助教材		ステップアップノート 物理 改訂版				
目 標	科 目	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。			物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	・ 考査問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 授業での発問に対する答え ・ 実験やグループ活動			・ 考査問題 ・ 授業の中での発言や発表 ・ ワークシートなど提出物		・ 考査問題 ・ ワークシートなど提出物 ・ 学習活動や課題への取組状況 ・ 授業の中での発言や発表 ・ 実験やグループ活動への参加意欲や態度 ・ スタディサプリでの取り組み

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	32	第Ⅰ章 運動とエネルギー	1 平面運動と放物運動 2 剛体のつりあい 3 運動量の保存 4 円運動と単振動・万有引力	◎	○	◎
6-8	24	第Ⅱ章 波動	1 波の性質 2 音波 3 正弦波 4 光	◎	○	◎
前期期末考査						
9-11	44	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第Ⅲ章 電気と磁気	5 気体の性質と分子の運動 1 電場と電位 2 電流 3 電流と磁場	◎	◎	○
後期中間考査						
12-3	40	第Ⅲ章 電気と磁気 第Ⅳ章 原子	4 電磁誘導と交流 1 電子と光 2 原子と原子核	◎	○	○

3 年次		選択 3 5 + 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		生物	4	選択授業	畠山 薫	
教科書		生物（数研出版）				
補助教材		リードLightノート生物（数研出版）				
目 標	科 目	・細胞を作っているタンパク質の構造や遺伝子、またそれによって引き起こされる光合成や呼吸といった生命現象の概念を把握する。 ・DNAの構造と遺伝子発現の仕組みについて学習し、バイオテクノロジーへの利用についても理解する。 ・動物・植物の組織と調節の仕組みについて学習する。 ・生態系を構成する生物群集に仕組みについて学習する。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生物体の構造や仕組み、代謝・遺伝について理解する。観察実験において、実験装置や試薬を正しく使用することができる。		生命現象や仕組みについて、資料や実験結果から正しく読みとることができる。自分の読み取ったことをわかり易くまとめ、伝えることができる。		日常生活との関係性を理解し、生命の仕組みを積極的に探求しようとする。実験観察の目的を理解し、実験装置や実験に使う試薬を適切に選び、主体的に進めようとする。	
評価の方法	・定期考査		・教科書を読み込み学習内容をまとめ、生徒間で評価		・教科書の問いに対する答え、発展的気づきを考察として記述	

年間計画

年間計画		◎特に重視する ○重視する					
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-6	36	第1章 生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化	◎	◎	○	・生命の誕生や生物の進化について、遺伝子の構造と変異に基いて理解する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても理解する。 ・生物が進化の道筋をたどることによって系統に分類できることを理解する。人類の系統と進化についても理解する。 ・細胞を構成する物質について理解する。 ・タンパク質の構造を1次構造から4次構造まで理解する。 ・タンパク質が、酵素として機能する上での立体構造の重要性を理解する。 ・細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて理解する。 ・生体膜や細胞骨格については、その構造と構成タンパク質について理解する。 ・生体膜上で物質輸送や情報伝達に関わるタンパク質の、はたらきと仕組みについて理解する。
		第2節 遺伝子の変化と多様性					
		第3節 遺伝子の組み合わせの変化					
		第4節 進化のしくみ					
		第2章 細胞と分子	第5節 生物の系統と進化				
			第6節 人類の系統と進化				
			第1節 生物物質と細胞				
			第2節 タンパク質の構造と性質				
前期期末考査・仮評定①			第3節 化学反応にかかわるタンパク質				
			第4節 膜輸送や情報伝達にか				
7-9	32	第3章 代謝	第1節 代謝とエネルギー	◎	◎	○	・「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。 ・光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。 ・「生物基礎」で学習したDNAの構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。 ・遺伝子の発現について、転写レベルの調節を中心に学習する。 ・染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。 ・動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程・形態形成のしくみを理解する。 ・遺伝子を扱うバイオテクノロジーについて学習し、その原理と応用例を理解する。
		第2節 呼吸と発酵					
		第3節 光合成					
		第1節 DNAの構造と複製					
		第4章 遺伝情報の発現と発生	第2節 遺伝情報の発現				
			第3節 遺伝子の発現調節				
			第4節 発生と遺伝子発現				
			第5節 遺伝子を扱う技術				
仮評定②							
10-11	48	第5章 動物の反応と行動	第1節 刺激の受容	○	◎	◎	・ニューロン（神経細胞）の基本的な構造とそのはたらきを理解する。 ・受容器で受け取られた刺激（情報）が、神経系を介して、効果器へと至る経路を理解する。 ・刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に、効果器に関しては筋肉を中心に学習し理解する。 ・動物の行動については、神経系における情報の流れと理解する。 ・植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する。 ・環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを理解する。
		第2節 ニューロンとその興奮					
		第3節 情報の統合					
		第4節 刺激への反応					
		第6章 植物の環境応答	第5節 動物の行動				
			第1節 植物の生活とホルモン				
			第2節 発芽の調節				
			第3節 成長の調節				
			第4節 器官の分化と花芽形成の調節				
			第5節 環境の変化に対する応答				
後期中間考査・仮評定③			第6節 配偶子形成と受精				
12-1	24	第7章 生物群集と生態系	第1節 個体群の構造と性質	○	◎	◎	・個体群や生物群集について、それぞれの特徴を理解する。 ・生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における物質生産について理解する。 ・いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について理解する。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解させ、生物多様性の重要性を認識する。
		第2節 個体群内の個体間の関係					
		第3節 異なる種の個体群間の関係					
		第4節 系系の物質生産と物質循環					
			第5節 生態系と人間生活				
考査実施せず・確定評定							
合計	140						

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
数学		数学応用	2	選択授業		星 野 朋 己
教科書		なし				
補助教材		公務員 要点整理問題集 ポイントマスター 数的推理・資料解釈 第2版（T A C出版）				
目 標	科 目	これまでの数学で学習した概念や知識をもとに、事象を数学的に考察して活用しようとする態度、および的確かつ迅速に計算処理する能力を養う。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおける基礎的な知識を身につけ、数学的に推論し処理する技法を身につける。			方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおいて、数学的な見方や考え方を身につける。		方程式と不等式、速度、割合、場合の数と確率、整数、図形、図表とグラフにおいて、数学的に判断しようとする力を身につける。
評価の方法	・単元テスト、小テストで3段階A、B、Cに評価する。			・単元テスト、授業活動評価で3段階A、B、Cに評価する。		・授業活動評価、授業における活動を3段階A、B、Cに評価する。

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	方程式と不等式 速 度	・1次方程式 ・2次方程式 ・不等式 ・速さの3式 ・旅人算 ・流水算・通過算 ・時計算	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・問題を読み解き、正しく立式することができる。 ・方程式や不等式の解法について理解し、確実に答えを導くことができる。 ・速さ・時間・距離の関係を理解し、単位にも注意しながら正しく立式することができる。 ・2つの動点の関係を適切に捉え、答えを導くことができる。
6-8	12	割 合 場合の数と確率	・比 ・増減・売買 ・濃度 ・仕事算 ・場合の数 ・順列 ・組合せ ・確率	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・2つの数量の関係について正しく理解・立式し、答えを導くことができる。 ・百分率や割合の表現を適切に用いて計算することで、様々な値を求めることができる。 ・順列や組み合わせの仕組みを理解し、正しく立式することで様々な場合の数を求めることができる。 ・確率の基本性質を理解し、複数のケースにまたがる確率を求めることができる。
考査を実施せず							
9-11	22	整数 図形	・倍数と約数 ・整数のさまざまな問題 ・魔方陣 ・数列・規則性 ・角度 ・三角形・多角形 ・図形の比・相似 ・円と扇形 立体図形 ・展開図	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・2数の最大公約数や最小公倍数、n進数などを求めることができる。 ・配置された数の規則性に気づき、さまざまな数を求めることができる。 ・平行線や円、多角形の性質を用いてさまざまな角や辺の長さ、面積を求めることができる。 ・さまざまな立体の体積や側面積などを求めることができる。
考査を実施せず							
12-3	20	図表 グラフ	・図表形 ・グラフ	◎ ◎	○ ○	○ ○	・統計的な図表から情報を読み取り、確実にいえることを判断することができる。 ・円グラフ、棒グラフなど様々なグラフから情報を読み取り、確実にいえることを判断することができる。
考査を実施せず							
合計	70						

3 年次		選択 3 5				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語教養	2	選択授業	森田 友江・佐々木 ちひろ	
教科書		なし				
補助教材		ベーシック観光英語 English for Tourism -Basic-（三修社）				
目標	科目	①英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養い、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を身に付けている。 ②地域や社会の中にある課題を自ら見出し、試行錯誤や他者との共創によって、地域の未来に向けた解決策を英語で表現・発信しようとする。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・情報伝達のために必要な語彙や文法を習得し、伝えたい情報をまとめることができる。 ・課題解決のために必要な語句や文表現を、目的・状況・場面・聞き手や話し手の立場に応じて使うことができる。		・自らの発信のために必要な情報を的確に理解・収集し、まとめることができる。 ・収集した情報を元に、相手に伝わりやすい表現や構成で発信することができる。		・積極的な態度で言語活動に参加する。 ・他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。 ・まちの中で見つけた観光や異文化体験に関する課題を積極的に見つけ、他者とともに課題を解決しようとする。	
評価の方法	・単元テスト（語彙、文法） ・プロジェクト活動		・ライティングワーク（スライド・制作物） ・パフォーマンステスト（プレゼンテーション・インタビューなど） ・プロジェクト活動		・ペアワークやグループワーク ・パフォーマンステスト（プレゼンテーション・インタビューなど） ・プロジェクト活動におけるポートフォリオ（振り返りフォーム、活動ログなど）	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	Unit 1: Travel Unit 3: Getting on the Plane	・旅行一般や旅行業に関わる語彙・表現を習得し、海外旅行への興味関心を高める。	○	○	◎	<話すこと（発表）> ・既習事項を踏まえ、テーマに沿った内容を自分の言葉で発信できる。 <話すこと（やりとり）> ・英語でのやり取りの場面例から、必要な語彙・表現を習得することができる。
6-8	12	Unit 6: Hotel (Accommodations) Unit 7: Restaurant (Breakfast and Fast Food)	・宿泊、食事、観光や買い物に関わる語彙・表現を理解し、目的・状況・場面に応じたやりとりをできるようにする。	○	○	◎	<話すこと（やりとり）> ・自分の意見を即時にかつ簡潔に口頭で相手に伝えることができる。 <聞くこと> ・話し手の発信に対して相づちや質問を交えて適切に応答することができる。
		考查を実施せず					
9-11	22	Unit 8: Sightseeing Unit 9: Shopping Unit 10: Transportation	・観光や買い物、交通機関や移動に関わる語彙・表現を理解し、目的・状況・場面に応じたやりとりをできるようにする。	○	◎	◎	<書くこと> ・自分の発信のために的確に情報を理解・収集し、わかりやすい構成で発表内容をまとめることができる。 <話すこと（発表）> ・聴衆を意識した効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 <書くこと（制作）> ・収集した情報をわかりやすく表現し、効果的にまとめ、成果物を制作することができる。
		考查を実施せず					
12-3	20	Unit 11: Problems and Complaints Additional Unit: Traveling in Japan	・トラブルや苦情に関わる語彙・表現を理解し、目的・状況・場面に応じたやりとりをできるようにする。 ・日本の文化や伝統、生活や風俗、習慣などを再認識し、現代の日本の社会について、観光客や留学生などに発信することができるようにする。	○	◎	◎	<書くこと> ・課題探究を通して、自分たちが過ごしてきた地域の良さを海外の人たちに発信することができる。 <書くこと（制作）> ・収集した情報をわかりやすく表現し、効果的にまとめ、成果物を制作することができる。
		考查を実施せず					
合計	70						

3 年次		選択 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		倫理	2	選択授業	佐野 秀一郎	
教科書		詳述倫理 （実教出版）				
補助教材						
目 標	科 目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。		他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 7 0 点 ・ワークシート ・スタディサブリ配信課題		・小テスト ・定期考査 3 0 点 ・ワークシート ・プレゼンテーション ・スタディサブリ配信課題		・定期考査および課題提出を点数化 ・ワークシート ・プレゼンテーション ・自分の考えを文章化する ・スタディサブリ配信課題	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚	- 青年期の意義 - 青年期の課題	◎	○	○	- 人間の特質について多面的・多角的に考察し理解を深める。 - 青年期の意義を理解し、その知識を身につけている。
6-8	12	人間としての自覚	- ギリシャ思想 - キリスト教 - イスラーム - 仏教	◎	○	○	- 自然哲学とソフィストについて理解できている。 - ソクラテスの考え方や生き方について理解できている。 - プラトンのイデア論とアリストテレスの現実主義とを比較できている。 - 古代ユダヤ教の教えについて理解できている。 - イエスの説いたアガペーの意義について理解できている。 - キリスト教の誕生とその後の展開について理解できている。 - イスラームの成立の背景と偶像崇拜の禁止等の特徴を理解できている。 - 仏教以前のインドの思想について理解できている。 - ブッタの教えを理解し、その世界観や人間観の特徴を考察できている。 - 儒家思想の展開について理解できている。 - 老荘思想について儒家思想との比較ができている。 - 芸術の持つ意義について理解できている。
		前期期末考査	- 中国思想 - 芸術と人生				
9-11	22	日本人としての自覚	- 古代日本の思想 - 日本の仏教思想 - 近代日本の思想 - 西洋思想の受容と展開・人間の尊厳 - 民主社会と自由の実現 - 社会と個人	◎	○	○	- 日本の風土と日本人の気質の特徴について理解できている。 - 古代に日本人の宗教観や道徳観について考察できている。 - 日本で受容された仏教の特徴とその展開について理解できている。 - 日本文化と仏教との関係について理解できている。 - 日本で受容された儒教の特徴について理解できている。 - 江戸時代の多様な思想展開について考察できている。 - 水戸学など幕末において求められた思想について理解できている。 - 啓蒙思想と自由民権思想を理解し、日本の近代化の課題について考察できている。 - 日本におけるキリスト教の受容のあり方について理解できている。 - 西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 - 日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察できている。 - 明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身に付けている。
		後期中間考査					
12-3	20	現代と倫理	- 人間の尊厳 - 民主社会と自由の実現 - 社会と個人 - 人間への新たな問い - 社会参加と幸福 - 医療倫理 - 情報化社会とリテラシー - 問題演習	◎	○	○	- ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観について理解できている。 - ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響について理解できている。 - モラリストの思想について理解できている。 - 近代の自然科学及び機械論的自然観の特徴を理解し、それらが与えた影響について考察できている。 - ベーコンとデカルトの思想について両者を比較しながら理解できている。 - 功利主義思想の特徴とその意義について理解できている。 - 実証主義や社会進化論、プラグマティズムの思想について、理解できている。 - 社会主義思想及びマルクスの人間観・社会観を理解し、現代の貧困や格差などの問題について考察できている。 - 理性中心主義を批判についても、思想を理解し、近代の人間観の課題について考察できている。 - フランクフルト学派の思想を理解し、近代的な理性の問題点について考察できている。 - 医療倫理に関して、正確な知識を身につけ、自分事として捉えることができる。
合計	70						

3 年次		選択 3 6、3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		政治経済	2	選択授業	高橋英典・船水紀明	
教科書		詳述政治・経済（実教出版）				
補助教材		なし				
目標	科目	1. 民主政治の本質について学習し、政治についての基本的な見方や考え方を身に付ける。 2. 現代経済の機能を理解するとともに、経済についての基本的な見方や考え方を身に付ける。 3. 政治経済における基本的な理解を踏まえながら、現代の政治・経済の諸問題について主体的に考える。 4. 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用できる。		現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。		現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めることができる	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート		・定期考査 ・ワークシート	

年間計画

			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容 1. 市場機構 2. 現代の企業	◎	○	◎
						・経済活動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・経済活動について多面的・多角的に考察し、表現させる。
6-8	12	第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	3. 国民所得と経済成長 4. 金融のしくみ 5. 財政のしくみ 1. 経済の停滞と再生 2. 日本の中小企業と農業	○	◎	○
						・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。
9-11	22	第3章 現代経済と福祉の向上	3. 国民の暮らし 4. 環境保全と公害防止 5. 労使関係と労働条件の改善 6. 社会保障の役割	○	○	◎
						・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。
12-3	20	第2章 現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国際収支 2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と金融危機 4. 地域経済統合と新興国の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の課題	○	◎	◎
						・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。
合計	70	考査を実施せず				

3 年次		選択 3 6				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		演奏に親しむ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		なし				
補助教材		なし				
目 標	科 目	演奏活動を通じて、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、音楽の諸能力を伸ばし、豊かな心情を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・演奏技術の知識・理解を深め、生涯にわたって音楽を愛好する心情を深める。・進路実現を目標に、演奏技術の習得を目指す。		・自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。		・様々なジャンルの音楽に触れ、多様な音楽について探究し、演奏や鑑賞の態度を育成する。	
評価の方法	・演奏・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・実技試験		・演奏・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・実技試験		・発表・ワークシート・学習活動への参加状況や態度・鑑賞	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	・導入 ・演奏 1	・楽譜の読み方 ・発声練習 ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・基本的な楽譜の仕組みについて確認する。 ・発声の基本技能を身に付け、積極的に歌唱活動を行う。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・演奏 2	・ピアノ演奏 ・実技試験（ピアノ）	◎	◎	○	・鍵盤の仕組みについて理解し、基本的な演奏能力を身につける。
前期期末考査							
9-11	22	・演奏 3	・ギター合奏 ・ギター弾き語り ・実技試験（ギター）	◎	◎	○	・ギターの基本技能を身に付け、積極的に音楽活動を行う。 ・曲にふさわしい奏法や表現能力を身につける。
後期中間考査							
12-3	20	・まとめ	・発表	○	○	◎	・簡単な創作をグループで行い、創作や発表の基本を学ぶ。 ・演奏や鑑賞について、主体的に取り組む態度を育成する。
(後期期末考査)							
合計	70						

選択 3 6						
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	書に親しむ	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	なし					
補助教材	新訂 ペン習字教本（教育出版）					
目 標	科 目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。		・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。		・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	オリエンテーション (硬筆) 筆を作ろうスポンジ 篆刻	日常にある書を味わう 用具用材による変化を学ぶ 篆刻の基本を活かし、スポンジの素材で刻してみよう		○	◎ ◎ ◎
6-8	12	古代文字（甲骨）を刻す	毛筆で、甲骨文字を表現する 彩玉ボードで、甲骨文字を刻してみよう。	◎	○	◎
		前期期末考査				
9-11	22	墨（淡墨）を学ぶ 半紙と宣紙との違いを学ぶ 漢字仮名交じりの書と表具	磨墨で、墨の色を見よう 紙質による違いを味わおう	◎ ○	○ ◎	○ ◎
		後期中間考査				
12-3	20	生活の書	毛筆・硬筆による小書き ・お祝い ・熨斗袋 ・お礼（挨拶） 手紙を書く	◎ ◎	○ ◎	◎ ◎
		後期期末考査				
合計	70					

3 年次		必修				
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
保健体育	体育	3	2 クラス 3 展開		稲村、北辻、久保、斎藤	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材						
目 標	科 目	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		・生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を思考・判断できる。 ・自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続する計画を工夫し、他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組む態度を養うことができる。	
評価の方法	・授業への取り組み（観察） ・ルール、審判法の理解 ・練習方法の計画性 ・基本的な個人技能 ・周囲への配慮		・授業への取り組み（観察） ・自己の課題設定 ・練習方法の工夫		・授業への取り組み（観察） ・ルールの遵守 ・安全への配慮	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	24	体づくり運動 陸上競技 現代的なリズムのダンス	体ほぐし運動 体力を高める運動 スポーツテスト 競走、跳躍、投擲 仲間と動きを合わせリズムに乗って踊るダンス	○ ◎ ◎	○ ◎ ◎	◎ ○ ○	・体力の構成要素とそれらが健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて理解する。 ・自己の能力に適した種目を選び、段階的かつ継続的に練習をすすめ、自己目標を設定し記録や演技力の向上を目指す。（陸上競技、器械運動） ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。また、自主的に取り組むとともに助け合い教え合い、話し合いに貢献したり、一人ひとりの違いに応じた表現や役割を大切にする。（現代的なリズムのダンス）
6-9	36	選択Ⅰ	バレーボール サッカー ソフトボール	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ゲームの特性を理解し、集団的・個人的技能を活用して楽しくゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
10-11	24	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。
12-3	21	選択Ⅱ 体育理論	バレーボール バスケットボール 卓球 豊かなスポーツライフの設計	◎ ◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	・基本的な知識や技能、楽しみ方を身に付けさせ、協力して防御から攻撃への連携ができる。 ・ルールを遵守し、相手を尊重しながら、協力して安全にゲームができる。 ・各球技のルールを把握し、審判法を身に付け、実践することができる。 ・スポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などに応じて変化するものであることを理解できるようにする。
合計	105						

3 年次		必修			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
外国語		英語コミュニケーションⅢ	4	学級単位	森田 友江 ・ 佐々木ちひろ ・ 菅野 萌恋
教科書		MY WAY English Communication Ⅲ			
補助教材		abceed, 必携英単語LEAP, Focus on Listening Standard, Rapid Reading			
目 標	科 目	読む ○英語話者に向けて書かれた実用的な文章（ガイドブックや広告等）から必要な情報を得ることができる。 ●外国の文化や生活など簡単な紹介や説明を読み、概要を理解することができる。 聞く ○日常生活の身近な話を理解することができる。（セールの情報、地域のイベントなど） ●外国の文化や生活など簡単な紹介や説明を聞いて、理解することができる。（5W1Hの形の要約文を完成させる） 話す(発) ●簡単なメモがあれば、社会的な話題と結びつけながら読んだり聞いたりしたことと自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝えることができる。 話す(や) ○自分の要望や伝言を伝えたり、簡単な質問をしたりして、英語で交渉することができる。 ●簡単なメモがあれば、相手の意見を踏まえた上で、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝え合うことができる。（ディベート活動） 書く ●読んだり聞いたりしたことを社会的な話題と結びつけながら（反対意見も踏まえた上で）、自分の考えを順序立てて、具体例を挙げながら伝えることができる。			
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力
	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	[L] 本文を聞き取る技能を身に付けている。 [R] 文法に留意して、内容を読み取る技能を身に付けている。 [R] 文章を読み取るために必要となる文法に関する事項や表現の意味や働きを理解している。 [Sや] 論理性に注意して円滑に意見を交換する技能を身に付けている。 [S発] グループで話し合った内容を、論理性に注意して報告する技能を身に付けている。 [W] 論理性に注意して既習文法などを用いて簡潔に書いて伝える技能を身に付けている。		[L] 本文の概要や要点、必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えている。 [R] 本文を読み取り、概要や要点を把握している。 [Sや] 基本的な語句や文を用いて、考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 [S発] グループで話し合った内容を基に、論理性に注意して基本的な語句や文を用いて、情報や考えを発表して伝えている。 [W] 読んで得られた情報などを参考にしながら、論理性に注意して簡潔に書いて伝えている。		[L] 本文の概要や要点、必要な情報を、主体的、自律的に聞き取って捉えようとしている。 [R] 本文を主体的、自律的に読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 [Sや] 基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に考えを話して伝えたり、相手からの質問に答えようとしたりしている。 [S発] グループで話し合った内容を基に、基本的な語句や文を用いて、主体的、自律的に情報や考えを発表して伝えようとしている。 [W] 本文を読んで得られた情報などを参考にしながら、主体的、自律的に簡潔に書いて伝えようとしている。
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・パフォーマンステスト		・パフォーマンステスト ・小テスト ・定期考査		・定期考査 ・パフォーマンステスト ・小テスト

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	32	S1 L Spelling Bees R Blended Words S2 L Green Roofs R London—National Park City S3 L Robotic Pets R Flying Cars S4 L Buckwheat in the World R Insects: Food for Future	・必要な情報を聞き取る / 読み取る ・意味のまとまりごとに理解する ・キーワードや内容語から概要を把握する ・視覚情報を利用して聞き取る、読み取る	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文を読んで、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、自分の考えを詳しく話して伝え合い、会話を発展させることができる。 [S発] 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 多様な語句や文を用いて、報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
6-8	24	S5 L May Day R Dragon Boat Racing S6 L Mere Exposure Effect R Placebo Effects S7 L Amazing Abilities of Animals R The Mine-Detecting Rat: Magawa S8 L Actions for Saving Children R A Reassuring Song	・論理の展開を把握する（列挙・例示） ・論理の展開を把握する（原因・結果） ・話の要点を理解する ・話者や筆者の意図を推測する	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文の関するの記事等を読み、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合い、会話を発展させることができる。 [S発] 題材について、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材の利点、欠点について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書くことができる。
前期期末考査							
9-11	44	L1 "Priceless" Cafe, "Priceless" Community L2 Nihonium —A New Element Born in Japan L3 Tea in the Desert Climate L4 The Benefits of Origami L5 The Mysteries of English Spelling	・関係代名詞（主格） / 付帯状況with ・関係副詞 / 現在完了進行形 / 強調構文 ・現在完了 / 関係代名詞の非制限用法 / help+0+動詞の原形 ・助動詞のついた受け身 ・関係代名詞（主格） / 省略	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を捉えることができる。 [R] 本文を読み、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 [S発] 題材についてグループで話し合った内容を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材の利点・欠点について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
後期中間考査							
12-3	40	L6 New Discovery in the Nasca Lines L7 Today's Trash is Tomorrow's Treasure L8 Nap Time at School L9 Dog Tax L10 Space Development	・現在完了の受け身 / 過去完了の受け身 / 分詞構文 ・現在完了進行形 / 過去完了の受け身 / 分詞構文 ・前置詞+関係代名詞 / 分詞構文 / 比較 / 仮定法 ・関係代名詞の非制限用法 / 助動詞+受け身 / 現在完了の受け身 / 現在完了進行形	◎	◎	○	題材について、理解して考えを深めることができる。 題材について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。 [L] 本文を聞いて、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 [R] 本文を読んで、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 [Sや] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。 [S発] 題材についてグループで話し合った内容を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えを論理的に詳しく話して伝えることができる。 [W] 題材について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを複数の段落から成る文章で、論理的に詳しく書いて伝えることができる。
(後期末考査)							
合計	140						

2.3年次		選択 2 1 + 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
保健体育		生涯体育	2		北辻、久保	
教科書		大修館 現代高等保健体育				
補助教材						
目標	科目	それぞれの体力、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、生涯にわたってスポーツに親しむことができる態度を育成する。既存のニューススポーツから、さらに発展させたオリジナルのニューススポーツを開発しようとする態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動技術の仕組み、体力の高め方、スポーツの文化について理解しているか。自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めている。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価の方法	授業への取り組み（観察） ルールの遵守 基本的な個人技能		授業への取り組み（観察） 自己の課題設定 練習方法の工夫		授業への取り組み（観察） 練習方法の計画性 周囲への配慮	

年間計画

月		時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	12	オリエンテーション 体づくり運動	体ほぐし運動 体力を高める運動		○	◎	◎	・ライフステージに応じた体力トレーニングの方法を理解して実践している。 ・グループで協力しながら、仲間づくりやマナーを学ぶことができる。 ・仲間と協力して課題を解決することができる。
6-9	24	レクリエーション スポーツⅠ	キックベース タグラグビー/タッチフット テニス/パークゴルフ アルティメット (雨天時バレー、卓球)		○	◎	◎	・運動技能の構造や運動の学び方について理解することができる。 ・屋外における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
10-11	18	レクリエーション スポーツⅡ	テニボン インディアカ ドッチビー ミニバレー		○	◎	◎	・屋内における様々なスポーツを体験し、運動に親しむ能力を身に付けることができる。
12-3	16	レクリエーション スポーツⅢ 家庭学習	ニューススポーツ		○	◎	◎	・日本で行われているニューススポーツや、世界各国で行われているニューススポーツを体験するとともに、オリジナルのニューススポーツを開発しようとする態度を身に付けることができる。
合計	70							

2 年次		選択 3 7 ・ 2 1				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		音楽Ⅱ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		音楽Ⅱ Tutti+				
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。		イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法		・演奏（理解） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験		・演奏（技術） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験・鑑賞		
				・演奏（態度） ・ノートやワークシート ・学習活動への参加状況や態度（観察） ・実技試験 ・鑑賞		

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・歌唱	・オリエンテーション ・発声練習 ・歌唱（コンコーネ） ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・発声の基本技能を身にけ積極的に歌唱活動を行う。 ・音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダ（2重奏） ・器楽合奏 ・声の世界 ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・他者との調和を意識したり、合奏の特徴を生かしながら、イメージを持って表現を創意工夫する。
前期期末考査							
9-11	22	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（合奏） ・ヴォイスアンサンブル ・舞台芸術の世界（歌唱） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞 ・創作 ・発表	・ギター（弾き語り） ・舞台芸術の世界 ・ドラム ・発表	○	○	◎	・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。 ・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
後期期末考査							
合計	70						

		選択３ ７ ・ ２ １				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
		書道Ⅱ	2	選択授業	天満谷 貴之	
教科書		教育図書 書道Ⅱ				
補助教材		なし				
目標	科目	(１) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (２) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (３) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。 ・書の伝統や文化に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。		・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を深く捉えることができる。		・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育み、書の伝統と文化を踏まえて、心豊かな生活や社会を創造できる態度を養うことができる。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書１ 篆刻	古典（歴史の変遷）を探る 泰山刻石と金文 姓名印を刻そう	◎ ◎	◎	○	○書道Ⅱで目指す内容を整理し、１年間の流れ・評価等について確認 <知識・技能> ○篆書の歴史を理解し、日常との関連を図りながら篆書・篆刻の技能について理解し、学ぶことができる。 ○主体的にグループワーク、ICTを効果的に活用し、知識・技能習得を目指す。 <主体的に学習に取り組む態度> ○文字の成立を正しく理解し、書の伝統と文化について考察し、日常生活と関連していることを探究し理解を深める。
6-8	12	漢字の書２	行書と楷書の違いと美 日本の書を学ぶ	◎	○	◎	<知識・技能> ○楷書・行書の用筆法を正しく理解し、古典の特徴を活かしながら臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシート・ICT機器を効果的に活用させ、自国の歴史的背景と関連させながら、文字文化の価値について、思考し表現することができる。
前期期末考査							
9-11	22	漢字仮名交じりの書	詩人の言葉を書く 生活の中に生きる書 手紙を書く	◎	○ ◎	○	<知識・技能> ○俳句・短歌等を題材に、自己の表現意図に基づいて表現することができる。 ○日常生活場面を想定し、文字が生きる場所・生かされる場所などを考察し、感性を働かせながら表現活動することができる。 <思考・判断・表現> ○日本の文化を様々な角度から探究し、日本の文字文化を支える「手紙」のよさや、価値を理解し感受することができる。
後期中間考査							
12-3	20	仮名の書	古筆を学ぶ	◎	◎		<知識・技能> ○荒野切れ・和漢朗詠集を通して、書き手を想像しながら細部まで緻密に臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○習得した用筆法を活用し、原寸サイズでの境地を迫体験し、仮名のよさや価値について味わうことができる。
後期期末考査							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学研究A	2	選択授業	二階堂 航・今井 香恵	
教科書		なし				
補助教材		共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C (Z会)				
目標	科目	既習事項を通して、発展的な数学へと繋がる複雑な事象を主体的に探究し、解答を導く経験を重ねることで、自らの考えを言語化する表現力や、共感を生む対話力を育む。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学Aにおける基礎的な知識を統合的に理解できる。 ・基本解法を用いた課題解決のための技能を習得できる。		・数学Ⅰ、数学Aで身につけた知識を横断的に活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・的確な数理的処理を経て、その過程や結果を数学的な表現を用いて記述することができる。		・数学Ⅰ、数学Aで取り上げた数学的なものの見方や考え方に関心をもち、その良さを認識できる。 ・数学的根拠をもって判断する姿勢をもち、自身の解決プロセスを振り返り、評価・改善を通じて思考を深めようとしている。	
評価の方法		・各単元テスト、小テスト、定期考査などで3段階A, B, Cで評価する。		・主に定期テストと単元テストなどで3段階A, B, Cで評価する。		・予習プリントおよび定期テスト、単元テストの項目ごとの課題への取組、提出状況を加えて、3段階A, B, Cで評価する。

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	14	- 方程式と不等式 - 集合と論理 - 図形と計量 2次関数 - データの分析	○基本問題の確認と演習 ○練習問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	- 基本事項を理解し、解を求めることができる。 - 実数や絶対値の性質について理解し、場合分けを必要とする問題を解くことができる。 2次方程式と判別式の関連性を理解し、問題を解くことができる。 - 集合の基礎知識の理解を深め、活用することができる。 - 三角比の性質を理解し、正弦定理、余弦定理、三角形の面積を求めることができる。 2次関数のグラフの移動と最大値、最小値の原理を理解できる。 2次関数のグラフと2次不等式との関連性を理解できる。 - さまざまなデータについて代表値を元にデータの持つ性質や相関関係を考察することができる。
6-8	14	- 図形の性質 - 場合の数と確率 - 方程式と不等式 - 集合と論理 - 図形と計量	○基本問題の確認と演習 ○練習問題の演習、説明 ○実践問題の演習、説明	◎ ○ ◎	◎ ○ ◎	◎ ○ ◎	- 図形の性質の基礎事項を確認し、図形の見方に適切に活かすことができる。 - 順列や組合せ等の基礎事項を事象に合わせて適応することができる。 - 数と式の展開・因数分解の知識に基づき、方程式の解の構造を論理的に説明できる。 - 集合の性質を用いて、論理式を簡略化したり、複雑な条件を整理したりできる。 - 文章題から正弦定理・余弦定理を適切に選択・駆使し、与えられた辺や角の条件から必要な解法を導き出せる。
前期期末考査							
9-11	24	2次関数 - データの分析 - 図形の性質 - 場合の数と確率 <応用問題演習>	○実践問題の演習、説明 ○完成問題の演習、説明	◎ ◎	◎ ◎	◎ ◎	2次関数のグラフを視覚的に活用し、方程式・不等式や文字定数を含む「場合分け」の問題においても、状況を的確に整理し、正解に至る手順を論理的に導き出すことができる。 - データの分析の知識を生かし、2つのデータの関連性を導きだすことができる。 - 三角形や円の性質を基盤として、図形の中に隠れた条件を的確に見出し、正解に至る論理的な思考プロセスを構築できる。 - 複雑な事象に対しても、樹形図やベン図などの適切な表現方法を用いて状況を整理し、漏れや重複のない正確な数え上げや確率の計算を、粘り強く実行することができる。
後期中間考査							
12-3	18	<入試問題演習>					- 応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。 - 入試問題から数学的な見方考え方を学び、様々な問題からより深く数学について学ぶことができる。
考査を実施せず							
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
情報		情報研究	2	選択授業	山下 賢一	
教科書		なし				
補助教材		なし				
目標	科目	プレゼンテーション、ホームページ作成、プログラミング、画像処理等を学び、情報収集・整理分析・発信の基礎を学ぶ。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	各ソフトウェアの特徴を理解し操作できる。		収集した情報や経験から（インプット）、各自で考えた（思考）内容をソフトウェア上に表現し、分りやすく相手に伝えることができる（アウトプット）。		自ら進んで、情報を収集し、各自の作品やプレゼンテーションに活かそうとすることができる。	
評価の方法	レポート提出 課題提出		プレゼンテーション 課題提出		授業態度 プレゼンテーション	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達目標
4-5	16	画像処理 プレゼンテーション ポスター発表	○画像処理の基本 ○動画作成 ○グループ発表	◎	◎	○	・写真を加工し、画像処理の基本操作ができる。 ・動画作成の基本操作ができる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。
6-8	12	ホームページ作成 プログラミング 1	○ホームページ作成の基礎 ○グループ発表 ○プログラムの基本	◎ ○ ◎	◎ ◎	○	・HTMLの基本操作ができる。 ・ソフトウェアを活用しオリジナルの作品を作成できる。 ・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。
		考查を実施せず		◎			
9-11	22	プログラミング 2 Python Unity等	○グループ発表 ○様々なプログラム ○Society5.0	◎ ◎	◎ ◎	○	・分かりやすく相手に自分の作品の意図を伝える事ができる。 ・プログラム言語の基本活用ができる。 ・現代社会とプログラムの役割に気付く事ができる。
		考查を実施せず		◎	◎	○	
12-3	20	プレゼンテーション 2	○グループ発表	◎	◎	○	・分かりやすく相手に伝わる発表ができる。
		考查を実施せず		◎	◎	○	
合計	70						

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
外国語		英語探究	2	選択授業	菅野 萌恋	
教科書		なし				
補助教材		英語総合問題集 Wonderland 3 3rd Edition				
目 標	科 目	基本的な語句や文を用いて場面に応じた表現を工夫しながら書いたり話したりすることができるようになる。日常的なテーマや社会的な話題について、書き手や話し手の意向を理解し、自分の考えを述べるようになる。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・他者とコミュニケーションを図ろうと努力する。 積極的な態度で言語活動に参加する。		・読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。 ・英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		・学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査 ・提出ノート		・スピーキングテスト ・ライティングワーク ・定期考査（英作文、初見英文読解、リスニングなど）		・ペアワークやグループワーク ・設問への取り組み状況	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	UNIT 1 UNIT 2 UNIT 3 UNIT 4	環境/文型 生物/時制 文化/助動詞 職業/態	○	◎	◎	・英語で書かれた文章特有の構成を知り、基本的な語彙・文法を踏まえて、読解に活かすことができる。 ・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取り、自分の考えを述べる ことができる。
6-8	12	UNIT 5 UNIT 6 UNIT 7	起源/不定詞 物語/不定詞・動名詞 Eメール/分詞①	◎	◎	○	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・各Lessonについて自分の意見や考えを述べる ことができる。
		前期期末考査					
9-11	22	UNIT 8 UNIT 9 UNIT 10 UNIT 11	物語（速読）/分詞② 社会/比較① 生物/比較② 歴史/関係詞①	○	◎	◎	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・各Lessonについて自分の意見や考えを述べる ことができる。
		後期中間考査					
12-3	20	UNIT 12 UNIT 13 UNIT 14 UNIT 15	工業/関係詞② 物語/仮定法 生物/疑問文 植物（速読）/語法	◎	◎	○	・各Lessonについて概要や筆者の意図を読み取ることができる。 ・日常的なテーマや社会的な話題について自分の意見や考えを論理的な 構成で述べる ことができる。
		（後期期末考査）					
合計	70						

3 年次	選択 3 6、3 7				
教科	科目	単位数	学級編成	担当者	
公民	政治経済	2	選択授業	高橋英典・船水紀明	
教科書	詳述政治・経済（実教出版）				
補助教材	なし				
目標	科目	1. 民主政治の本質について学習し、政治についての基本的な見方や考え方を身に付ける。 2. 現代経済の機能を理解するとともに、経済についての基本的な見方や考え方を身に付ける。 3. 政治経済における基本的な理解を踏まえながら、現代の政治・経済の諸問題について主体的に考える。 4. 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
					状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けることができる。 ・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用できる。		現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。		現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めることができる
評価の方法		・小テスト ・定期考査 ・ワークシート	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	

年間計画

			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ	1. 経済活動の意義 2. 経済社会の形成と変容 1. 市場機構 2. 現代の企業	◎	○	◎
						・経済活動について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・経済活動について多面的・多角的に考察し、表現させる。
6-8	12	第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上	3. 国民所得と経済成長 4. 金融のしくみ 5. 財政のしくみ 1. 経済の停滞と再生 2. 日本の中小企業と農業	○	◎	○
						・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。
9-11	22	第3章 現代経済と福祉の向上	3. 国民の暮らし 4. 環境保全と公害防止 5. 労使関係と労働条件の改善 6. 社会保障の役割	○	○	◎
						・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現させる。
12-3	20	第2章 現代の国際経済	1. 商品・資本の流れと国際収支 2. 国際経済体制の変化 3. グローバル化と金融危機 4. 地域経済統合と新興国の台頭 5. 地球環境とエネルギー 6. 経済協力と人間開発の課題	○	◎	◎
						・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めさせる。 ・現代の国際経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現させる。 ・国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。
合計	70	考査を実施せず				

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
公民		倫理応用	2	選択授業	細木雅伸	
教科書		詳述公共 （実教出版）				
補助教材		ズームアップ公共資料 （実教出版）				
目 標	科 目	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を理解し、知識として身に付けている。		人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立つて主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を表現できる。		青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努めることができる。諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
評価の方法	・小テスト ・定期考査		・定期考査 ・ワークシート ・テーマ学習（調べる→スライド作成→発表）		・ワークシート ・テーマ学習（調べる→スライド作成→発表）	

年間計画			◎特に重視する ○重視する			
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	青年期の課題と人間の自覚	・青年期の意義 ・青年期の課題	○	○	○
6-8	12	人間としての自覚	・ギリシャ思想 ・キリスト教 ・イスラーム ・仏教	○	○	○
		前期期末考査	・中国思想 ・芸術と人生			
9-11	22	日本人としての自覚	・古代日本の思想 ・日本の仏教思想 ・近代日本の思想 ・西洋思想の受容と展開・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人	○	○	○
		後期中間考査				
12-3	20	現代と倫理	・人間の尊厳 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福	○	○	○
		後期期末考査				
合計	70					

3 年次		選択 3 7				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
理科		実践化学	2	選択授業	岩谷 義久	
教科書		なし				
補助教材		レッツトライノート化学Vo1. 4有機化合物, 5高分子化合物（東京書籍）				
目 標	科 目	・身の回りの物質と物質の変化に関する化学的な概念、原理、法則を理解すること。 ・有機物や高分子化合物をよく知ることにより、医療の現場で的確に判断を下すことができるようになること。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	段取力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		化学の特徴について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。		化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関り、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価の方法	・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・レポート提出		・小テスト ・単元テスト ・定期テスト ・日常的な学習活動や課題への取組 ・グループ学習等	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	有機化合物	1. 有機化合物の特徴と構造 2. 炭化水素 3. アルコールと関連化合物	◎	○	◎	・有機化合物の特徴と構造について、炭素・水素・酸素・窒素・硫黄・リンなどの原子を中心として学ぶ。 ・炭化水素の基本的構造と分類、それぞれの性質について学ぶ。 ・アルコール・アルデヒド・カルボン酸・アミン・エーテル・ベンゼン環など、炭化水素関連物質について学ぶ。
6-8	12	有機化合物	3. アルコールと関連化合物 4. 芳香族化合物	◎	○	◎	・アルコール・アルデヒド・カルボン酸・アミン・エーテル・ベンゼン環など、炭化水素関連物質について学ぶ。 ・芳香族化合物について学ぶ。
前期期末考査							
9-11	22	高分子化合物	1. 天然高分子化合物 2. 合成高分子化合物 3. 高分子化合物と人間生活	◎	○	◎	・糖・脂肪・タンパク質・核酸など、生体に含まれる有機高分子化合物について、学ぶ。
後期中間考査							
12-3	20	高分子化合物	3. 高分子化合物と人間生活	◎	○	○	・プラスチックなどの合成高分子化合物の種類と合成反応について学ぶ。
合計	70						

3 年次		選択 3 7			
教科		科目	単位数	学級編成	担当者
家庭		フードデザイン	2	選択授業	坂 上 真 子
教科書		フードデザイン（実教出版）			
補助教材		なし			
目 標	科 目	・栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し，食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び，食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	資 質	自己開示力	課題発見力	計画実行力	思考力
	・ 能力	自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現	
		主体的に学習に取り組む態度			
評価の方法		・小テスト ・実習における達成度 ・作品評価		・発表や発言の状況 ・グループ評価・課題の取り組み状況 ・相互評価 ・想像的課題に対する取り組み	

年間計画		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	1 章 食生活と健康 2 節 食をとりまく現状 6 章 フードデザイン実習 1 節 献立作成 1 項 日常食の献立作成条件 2 項 日常食の献立作成の手順 和風献立、洋風献立、中国風献立	・各国の食料自給率を通して、日本における食料生産の問題点を考えさせる ・市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき、食料の価値を考える ・地球環境の保全、生物連鎖と食生活との関わりについて理解し、資源の有効活用の意識を高め、日常の生活行為を見直させる ・調理上の基本事項を習得し、調理実習や家庭生活の向上にいかせる ・基礎的な題材から始めて、品数を増やしたり、工程が多いものに移行していくなど、段階的に調理技術の向上をはからせる	○	○	◎
6-8	12	4 章 調理の基本 1 節 調理とおいしさ 1 項 調理の目的 2 項 食べ物のおいしさ 3 章 食品の特徴・表示・安全 1 節 食品の特徴と性質	・何のために調理するのかを理解させる ・おいしさにかかわる条件を知り，調理にいかせるようにする。 ・だし，味覚効果，料理の触感や温度，素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し，調理にいかせる。 ・計量の方法，食品の切り方，調理方法の基礎，加熱調理器具ごとの特徴などについて，具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・穀類，砂糖，大豆・豆製品，野菜，果物，海藻類，魚介類，肉類，卵，乳・乳製品，油脂，調味料，香辛料等様々な食品について，それぞれの特徴を把握させる。	○	◎	○
		考查を実施せず*				
9-11	22	7 章 食育 ・食育の意義と推進活動 6 章 フードデザイン実習	・食育が生活とどのように関わっているか考えさせる。 ・テーマに合わせて献立作成することができる	○	○	◎
		考查を実施せず*				
12-3	20	5 章 料理様式とテーブルコーディネート 3 項 供応食・行事食 敬老の日、クリスマス、正月、桃の節句、子ども日	・それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる ・テーブルコーディネートの特徴を知り、実際にコーディネートを実践することができる。 ・栄養バランス，年齢，性，目的を考慮した食事の献立について，要点が理解でき，日常食，行事食など用途に適した献立が作成できる。	◎	○	◎
		考查を実施せず*				
合計	70					

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
国語		小論文発展	2	選択授業	小牧陽二郎・松村規正・秋山幸一	
教科書						
補助教材		サクセス小論文講座（桐原書店）				
目 標	科 目	文章の構成、表現方法などを学び、800字から1200字程度の小論文を書くことができる。				
	資 質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・基礎的な言語事項の学習を習慣化し、応用知識を身につけることができる。 ・原稿用紙の使い方にのっとり自分の考えを文法的に正しく書くことができる。		・文章表現の学習を通して、目的や場に応じた適切な表現により、自分の思考を表現することができる。 ・評論文・随筆の読解演習やデータの読み取りを通して、自分の考えを深め、発展させることができる。		・言語文化に対する関心を深め、積極的な態度で言語活動に参加することができる。 ・他の文章や他人の考えを参考にし、自分の考えを表現する方法を追求することができる。	
評価の方法	・ワークブックの提出		・要約演習 ・小論文演習		・ワークブックの仕上げ ・グループ学習、討議 ・調べ学習	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	- オリエンテーション - 文章を書く基本	- 小論文とは - 正しい表現の仕方 - 論理的な文章の学習 - 段落構成	◎		○	- 作文と小論文の違いを理解することができる。 - 自分のスケジュールに照らし合わせることができる。 - 原稿用紙の表記を理解することができる。 - 段落構成を理解することができる。 - わかりやすい表現を心がけることができる。
6-8	12	- 小論文とは何か - 小論文の書き方	- 評論キーワードの理解・背景知識の習得 - 文章の読解・要約 - 課題小論文	◎		○	- 一般的に現代社会で問題とされている分野の背景知識を広げることができる。 - 評論文におけるキーワードについて学習を深めることができる。 - 習得した知識から派生して、自分の興味・関心のある分野について調べ、課題を見つけることができる。
前期期末考査							
9-11	22	- さまざまな出題形式 - バリエーション豊かな課題への対応	小論文演習		◎	○	- 課題文を俯瞰し、要約することができる。 - テーマに即した考えを広げ、論点をまとめて文章化することができる。 - 要約に対して、自分の考えを根拠とともにまとめることができる。 - 志望校・目標校を絞り込み、将来の理想をイメージすることができる。 - 求められている生徒像を理解し、自分を振り返ることができる。
後期中間考査							
12-3	20	よりよい小論文のために	発展学習		◎	○	- 総合型入試に向けた文章を作成することができる。 - 求められる学生像を鑑みて文章に反映させることができる。 - 一定の時間内にこれまで学習した成果を要領よく発揮させることができる。 - 複数の資料を自分の主張の根拠とすることができる。 - 客観的な情報から自分の考えを論理的に表現することができる。
合計	70						

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学研究B	2	選択授業	今井 香恵	
教科書		なし				
補助教材		共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・A/Ⅱ・B・C（Z会）				
目 標	科 目	既習事項を通して、発展的な数学へと繋がる複雑な事象を主体的に探究し、解答を導く経験を重ねることで、自らの考えを言語化する表現力や、共感を生む対話力を育む。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cにおける基礎的な知識を統合的に理解できる。 ・基本解法を用いた課題解決のための技能を習得できる。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで身につけた知識を横断的に活用し、事象を数学的に推論することができる。 ・的確な数理的処理を経て、その過程や結果を数学的な表現を用いて記述することができる。		・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Cで取り上げた数学的なものの見方や考え方に興味をもち、その良さを認識できる。 ・数学的根拠をもって判断する姿勢をもち、自身の解決プロセスを振り返り、評価・改善を通じて思考を深めようとしている。	
評価の方法	・各単元テスト、小テスト、定期考査などで3段階A, B, Cで評価する。		・主に定期テストと単元テストなどで3段階A, B, Cで評価する。		・予習プリントおよび定期テスト、単元テストの項目ごとの課題への取組、提出状況を加えて、3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

年間計画			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	14	・式と証明・高次方程式 ・図形と方程式 ・指数関数・対数関数 ・三角関数	○基本問題の確認と演習 ○練習問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・整式の除法や恒等式の性質、複素数の概念を理解できる。 ・2直線の位置関係や円と直線の位置関係の基礎知識を活用できる。 ・指数、対数の大小関係を理解し、基本的な方程式、不等式を扱うことができる。 ・三角関数の性質を理解し、基本的な方程式・不等式の解法を解くことができる。
6-8	14	・微分・積分 ・数列 ・統計的な推測	○基本問題の確認と演習 ○実践問題の演習、説明	◎ ○	◎ ○	◎ ○	・微分・積分の知識を生かし、3次関数のグラフの性質を理解し、基礎的な問題を解くことができる。 ・等差数列や等比数列の概念を理解して、漸化式を解くときに活用できる。 ・各種確率変数を自在に処理し、二項分布や正規分布の問題解決に活用できる。
前期期末考査							
9-11	24	・式と証明・高次方程式 ・図形と方程式 ・指数関数・対数関数 ・三角関数 ・微分・積分 ・数列	○実践問題の演習、説明	◎	◎	◎	・複素数の範囲で方程式を考察し解を導くことなどができる。高次方程式の解法や解と係数の関係を用いて、丁寧に正解を導くことができる。 ・2直線の位置関係や円と直線の位置関係について、図形を代数的に表現し処理する方法を学習し、活用できる。 ・指数関数、対数関数など、数学Ⅱで新しく定義された関数の概念を理解した上で、各種方程式・不等式の解法を解くことができる。 ・三角関数の性質を理解し、三角関数の合成を有効に使うことで問題を解くことができる。 ・微分・積分の知識を生かし、3次関数のグラフの性質を理解し、幅広く活用することができる。 ・数列の基礎知識を確認し、階差数列や漸化式などを処理するときに適切に活用できる。 ・事象を統計的な推測の考えを用いて考察でき、問題解決に活用できる。 ・ベクトルの基本的な性質を活用し、平面図形・空間図形を考察し、問題解決に活用できる。
後期中間考査							
12-3	18	・統計的な推測 ・ベクトル ＜応用問題演習＞					・応用問題を解く際の思考の流れを立て、的確に処理できるようにする。 ・入試問題から数学的な見方考え方を学び、様々な問題からより深く数学について学ぶことができる。
考査を実施せず ^{a)}							
合計	70						

3 年次		選択 3 3		選択 3 8			
教科		科目		単位数	学級編成		担当者
外国語		英語研究		2	選択授業		菅野萌恋 ・ 松尾啓史
教科書		なし					
補助教材		発展30日完成 [14] 英語長文を読むためのパラグラフ・リーディング（高校中級用）、 必携英単語LEAP 共通テストリスニング分野別10min、 共通テストリーディング分野別10min					
目 標	科 目	社会的な話題を読むことや、聞くことを通じて自分の考えを書いたり、既習の語句や文法事項を応用し、書いたり話したりすることができる。また、言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す。					
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力	
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる	
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	学んだ文法知識を活用し、伝えたい情報をまとめる。			読んだり聞いたりしたことについて情報や考えを分かりやすく伝える。英語で書かれた文章や英語で話された話の概要や要点を目的に応じて捉えることができる。		・自分の意見を伝えるために他者とコミュニケーションを図ろうとする。 ・積極的な態度で言語活動に参加する。	
評価の方法	・小テスト ・定期テスト			・小テスト ・定期テスト ・ペアワークやグループワーク		・小テスト ・定期テスト ・ペアワークやグループワーク	

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	- パラグラフリーディング - リスニング第1回～第8回	- パラグラフリーディングの技法を身に付け、全体の論旨を大きく把握して読む。 - リスニングの基礎力養成のために、話される速さや語句、情報量を分析し、理解を確認しながら聞き取る。	◎	○	○	<読むこと> ・パラグラフリーディングの技法を活用し、英文の構造を理解し、的確に情報を検索したり、意見や概要を把握することができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、内容や意見を把握することができる。
6-8	12	- リーディング Training1～6 - リスニング第7回～第13回	- 長文読解、図表読解、情報整理 - リスニングの実践力養成のために、情報量が多く、話題や展開が複雑な内容を想定して聞き取り、反復することで理解を深める。	◎	○	○	<読むこと> ・社会的な話題について、長文や図表を読解し、情報を整理しながら概要や要点を捉えることができる。 <聞くこと> ・英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（やりとり）> ・社会的な話題について、読んだり聞いたりしたことを基に、情報や考え、解決策などを論理的に話して伝え合うことができる。
		前期期末考査					
9-11	22	- リーディング Training7～18 - リスニング第14回～第25回	- 情報検索、意見把握、図表読解、長文読解 - リスニングの実践力養成のために、情報量がさらに多く、話題や展開がより複雑になる場合を想定して聞き取り、同様の内容を復習することで理解を深める。	○	◎	◎	<読むこと> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を扱う英文について、これまでの学習活動で身に付けた力を活用しながら多面的・多角的に読み取ることができる。 <聞くこと> ・話の展開に注意しながら英文から必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。 <話すこと（発表）> ・学術的な内容を含む話題やさまざまな事象を含む内容について、複数の視点や立場から、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。
		後期中間考査					
12-3	20	- リーディング Training19～26、80分テスト - リスニング第26回～第29回、30分テスト	- 長文読解、図表読解、情報整理 - リスニングの総合的な実践力養成のために、自力で目的を達成できるように、より実践的な課題に取り組む。	○	◎	◎	<書くこと> ・読んだり聞いたりしたことを基に、日常的な話題から社会的な話題にいたるまで、情報や考え、気持ちなどを複数の段落からなる文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。
		考査を実施せず ^a					
合計	70						

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
数学		数学発展	2	選択授業	二階堂 航	
教科書		なし				
補助教材		大学入試 短期集中ゼミノート 記述試験対策 数学Ⅱ + B + C （実教出版）				
目 標	科 目	数学Ⅱ、数学B、数学Cの既習事項の発展的演習をととして、複雑な数学的事項やさらに高度な数学に結びつく事象を数学的に考察し、数学的事象を多面的な思考で表現する能力を育てる。				
	資 質 ・ 能 力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において基礎的な知識を身につけ、数学的に推論し処理する技法を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において数学的な見方や考え方を身につける。		複素数、図形、三角・指数・対数の各関数、微積分、ベクトル、数列において考え方に関心を持ち、数学的に判断しようとする態度を身につける。	
評価の方法	・ 定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・ 定期テスト、単元テストの項目分を加えて3段階A, B, Cで評価する。		・ 定期テスト、単元テストの項目分に、課題の提出状況や日常的な学習活動や課題への取組を加えて3段階A, B, Cで評価する。	

年間計画

年間計画		◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度
4-5	16	式と証明、複素数と方程式 (1～10)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
		数列 (39～44)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
		図形と方程式 (11～19)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
6-8	12	三角関数、指数・対数関数 (20～29)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
		微分法と積分法 (30～38)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
前期期末考査			○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
9-11	22	ベクトル (52～59)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
		複素数平面・式と曲線 (60～70)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
		統計的な推測 (84～89)	○基本問題の確認と演習 ○マスター問題の演習と解説	◎ ○	○ ◎	◎ ◎
後期中間考査						
12-3	20	まとめと復習	○総合演習	○	◎	○
考査を実施せず						
合計	70					

北海道函館西高等学校 国語に親しむ 年間指導計画(2単位)				A 31 時間		B 31 時間		C 8 時間		計 70 時間								
				単 元 名														
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	10月	11月	11・12月	12・1月	1月	2月	3月	
科目の目標				日本語で書かれた散文および韻文全般の対象として、読むこと、書く(創作すること)を中心に理解を深める。														
(1) 知識及び技能				実社会に必要な文学の知識や技能を身につけるようにする。														
(2) 思考力、表現力、判断力等				論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。														
(3) 学びに向かう力、人間性等				言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。														
学年		3年次(選択)		担当		長澤元子												
使用教科書				特になし														
指導領域				A 話すこと・聞くこと														
授業時数の計				31 時間														
指導領域				B 書くこと														
授業時数の計				31 時間														
指導領域				C 読むこと														
授業時数の計				8 時間														
指 導 事 項																		
知識及び技能	(1)	A	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。	○	○									○				
		イ	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。		○	○	○				○		○					
		ウ	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	○	○													
		エ	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。			○	○	○					○		○			
		オ	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。			○	○	○								○		
	(2)	A	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。				○	○	○									
		イ	主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。			○		○						○				
		ウ	個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。				○			○				○				
		エ	推論の仕方を理解し使うこと。					○							○			
		オ	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。			○	○	○	○				○			○		
(3)	A	引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。			○													
(3)	A	実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。	○	○	○		○	○	○						○			
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	A	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。	○							○		○					
		イ	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。												○			
		ウ	話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。			○												
		エ	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。					○					○					
		オ	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。				○											
	B 書くこと	A	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。			○								○				
		イ	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。			○										○		
		ウ	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。				○										○	
		エ	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。			○	○							○				
		C 読むこと	A	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。			○								○			
イ	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。								○			○		○				
教 材 名																		
任意のテーマを設定し、それぞれの雑誌名(仮)で雑誌の記事を作る。『ガコール』を担任する。決めるグループごとに特集を担う。																		
任意のテーマと表現方法を設定し、表現活動を行う。成果物を任意の表現方法で創作する。																		
学習活動の評価と振り返り																		

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成	担当者	
芸術		音楽Ⅲ	2	選択授業	田中 俊幸	
教科書		Joy of Music				
補助教材		基礎から学ぶ高校音楽 Music Note				
目標	科目	・ 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 ・ 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ・ 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・ 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。				
		資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力
			自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や譜に気を感じながら、どのように表現するかについて理解する。		・ イメージを持った、創造的工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、それを表現している。		・ 音楽に親しみ、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に表現しようと工夫して取り組もうとしている。	
評価の方法		・ 演奏（理解） ・ ノートやワークシート ・ 学習活動への参加状況や態度（観察） ・ 実技試験		・ 演奏（技術） ・ ノートやワークシート ・ 学習活動への参加状況や態度（観察） ・ 実技試験・鑑賞		・ 演奏（態度） ・ ノートやワークシート ・ 学習活動への参加状況や態度（観察） ・ 実技試験 ・ 鑑賞

年間計画

◎特に重視する ○重視する

月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	・理論 ・歌唱	・オリエンテーション ・ソルフージュ ・合唱 ・実技試験（歌唱）	◎	○	◎	・発声の基本技能を身にけ積極的に歌唱活動を行う。 ・音楽の諸要素を知覚し、創造的に表現する。 ・合唱曲を通して、歌唱でイメージを表現できるようになる。
6-8	12	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダ ・器楽合奏 ・日本の歌曲（歌唱） ・実技試験（リコーダー）	◎	◎	○	・他者との調和を意識したり、合奏の特徴を生かしながら、イメージを持って表現を創意工夫する。
前期期末考査							
9-11	22	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞	・リコーダー（アンサンブル） ・ギター（合奏） ・ヴォイスアンサンブル ・子どもの歌（歌唱） ・実技試験（ギター）	◎	○	○	・自己の内容イメージを表現するための具体的な技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。 ・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。
後期中間考査							
12-3	20	・器楽 ・歌唱 ・鑑賞 ・創作 ・発表	・ギター（弾き語り） ・日本のポップス（歌唱） ・合唱 ・器楽合奏 ・発表	○	○	◎	・高度なギターの技能を身に付け、積極的に表現活動を行う。 ・それぞれ技術に合ったアンサンブル譜を使用し、グループ活動を通して積極的に音楽活動に参加する。
（後期期末考査）							
合計	70						

選択 3 8						
教科	科目	単位数	学級編成		担当者	
	書道Ⅲ	2	選択授業		天満谷 貴之	
教科書	なし					
補助教材	新訂 ペン習字教本（教育出版）					
目標	科目	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	資質・能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	(1)書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めることができる。(2)書の伝統や文化に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けることができる。		(1)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、書の美を味わい深く捉えたりすることができる。		(1)主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
評価の方法	・作品 ・自己評価シート ・ワークシート		・グループワーク ・作品 ・ワークシート		・作品 ・グループワーク ・ワークシート	

年間計画

			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度	到達度目標
4-5	16	オリエンテーション 漢字の書1	特異な古典を学ぶ (磨崖の書・古隸)	◎	○	○	<知識・技能> ○中国の歴史的背景を踏まえ、様々な各地にある古典を考察し、その文字の魅力を感じしながら、表現領域を広げることができる。
6-8	12	漢字の書2	楷書と行書を比較 日本の書を学ぶ	◎ ○	○ ◎		<知識・技能> ○楷書と行書の特徴を比較しながら、その特徴を活かし臨書することができる。 <思考・判断・表現> ○ワークシートを活用しながら、日本における三筆・三蹟を学ぶことで、日本の伝統文化である書の変遷、書法を理解することができる。
前期期末考査							
9-11	22	仮名の書	書の伝統文化を学ぶ ・関戸本古今和歌集 ・本阿弥切本古今和歌集 ・仮名の構成を学ぶ ・継色紙 ・升色紙 ・寸松庵色紙	○	◎	◎	<思考・判断・表現> ○三色紙（散らし書き）をそれぞれ比較・考察しながら構成の美を感じ、普遍的な美の境地を探究する。 <主体的に学習に取り組む態度> ○日本の文字文化を支える「古筆」を学ぶことで、その美しさやよさを感じ、追体験しながら当時の美意識を探究する。
後期中間考査							
12-3	20	漢字仮名交じりの書	自らの言葉で、表現する 用具・用材の妙に触れる 生活空間に生きる書を創作する	○ ◎	 ◎ ◎	◎ ○ ◎	<知識・技能> ○用具・用材を選定し、自らの意図に応じた効果的な表現ができる。 <思考・判断・表現> ○言葉の持つ意味を考え、それに調和するための要素を効果的に工夫しながら表現することができる。 <主体的に学習に取り組む態度> ○書がもたらす効用を考え、生活空間に生きる書を探究する。 ○半切サイズを中心に、書を創作し互いで鑑賞し合いながら、感性の美を鑑賞することができる。
後期期末考査							
合計	70						

3 年次		選択 3 8				
教科		科目	単位数	学級編成		担当者
芸術		色彩に親しむ	2	選択授業		安田 祐子
教科書						
補助教材						
目 標	科 目	美術活動を通じて、美術を愛好する心情・感性理解を深める。また自己の表現のために、必要な技術を身につけ表現の幅を広げる。作品鑑賞の能力を伸ばす。				
	資 質 ・ 能力	自己開示力	課題発見力	実行計画力	思考力	発信力
		自分を知り、学ぼうとすることができる	疑問を持ち、課題を見いだすことができる	先を見通して、物事を進めることができる	要点をつかみ、多面的多角的に考えることができる	状況に応じて、わかりやすく伝えることができる
評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	表現の方法・違いを正確に理解し、自身の好むより高度な表現のために必要な技能を習得する。		自身が求める創造的な表現がなされているかを考察する。感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。		幅広い表現方法と鑑賞活動に関心を持ち、主体的に生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などに理解を深めようとしている。模倣や繰り返しを避け、これまでの学習をもとに自由で新たな表現方法に挑戦している。	
評価の方法	・ 練習課題 ・ 作品 ・ 学習活動への参加状況や態度		・ エスキース、アイディアスケッチ等 ・ 作品 ・ 学習活動への参加状況や態度		・ エスキース、アイディアスケッチ等 ・ 作品 ・ 鑑賞レポート ・ 学習活動への参加状況や態度	

年間計画

年間計画			◎特に重視する ○重視する				
月	時数	単元	学習内容・学習活動	知識 技能	思考 判断 表現	主体的に 学習に 取り組む 態度	到達度目標
4-5	16	・ 導入 ・ 平面構成	・ オリエンテーション ・ 対比するテーマを色彩と構成により表現する	○	◎	◎	○色彩について基本的な知識の理解を深める。 ○画材、用具についての特徴を確認し深める。 ○対比するテーマについて多くの構成パターンを検討する。 ○自由で大胆な構成を行う。
6-8	12	・ 平面構成 ・ 油絵	・ 着彩 ・ 鑑賞 ・ 木炭によるデッサン （ 風景画 ）	◎	○	◎	○色彩と構成の理解を深め、完成作品の印象をイメージする。 ○画材の特徴を生かし、魅力的に着彩できる力を身につける。 ○用具の正しい使い方を身につける。 ○構図や遠近法を工夫することで奥行や空間を正確に再現する。 ●天気や光、雲や霧等の効果を生かし画館特有の風景を演出する。
(前期期末考査)							
9-11	22	・ 油絵 ・ コラグラフ	・ 油絵具による着彩 ・ 相互鑑賞 ・ 抽象的な表現について	○	◎	◎	○混色技法について理解を深め、思い通りの色を作り着彩する。 ○絵の具の層や多様なマチエールによる空間の表現を学ぶ。 ○日々変化していく風景を観察し、表現する力を深める。 ●身のまわりにある美しさ、面白さなどの気になるものを組み合わせて社会にあるものを新しい視点で見つめる。
(後期中間考査)							
12-3	20	・ コラグラフ	・ 下描きと構成 ・ 刷り ・ メッセージカード作成	○	○	◎	○抽象的な表現について素材の特徴と構成について深める。 ○色やかたちに変化を持たせ、画面にリズムを作りだす。 ●表現の先にある鑑賞者を意識する。 ●コラグラフにより制作したカードに文章を添えて発送する。
(後期期末考査)							